

長岡周辺地域の 温泉資源の 現状分析と情報発信 —温泉☆ドキドキプロジェクト—

平成28年度 学生による地域活性化プログラム

山川智子ゼミナール 活動報告書



ごあいさつ



長岡大学 学長 村山 光博

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は、平成 19 年度に文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代G P)に採択された「学生による地域活性化提案プログラム 一政策対応型専門人材の育成」に始まり、今年度で 10 年を迎えることができました。これまで長きにわたりこの取り組みを続けて来られたのは、地域の皆様の暖かいご支援とご指導の賜物と、深く感謝しております。まだ十分には地域の活性化に貢献しているとは言えませんが、このプログラムの取り組みを始めた 10 年前と比較すると、周辺地域における「学生による地域活性化プログラム」の認知度は明らかに高まってきていると感じております。これまで本プログラムの運営において積極的にご協力をいただいていた地域連携アドバイザーだけでなく、たくさんの地域の方々からも本プログラムの個々の取り組みテーマに対するお問い合わせや称賛の声をいただいております。また、これらの学生の取り組みに関して、新聞やテレビなどのマスメディアでも大きく取り上げていただくことが多くなりました。

長岡大学の建学の精神は、

- ・ 幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進
- ・ 地域社会に貢献し得る人材の育成

です。本プログラムは、まさにこの精神を実現するための本学の中心となる教育プログラムであると言えます。

「地域活性化とは何か」という問いに対する明確な答えは無いと思いますが、本プログラムでは、答えの無い課題に対して、どのように考え、どのように行動して行くのかを学生が自ら試行錯誤しながら体得していくことができます。大学を卒業して地域社会の一員となる学生たちが、これからの地域が抱える課題に積極的に取り組んでいくことを期待されることを考えると、彼らにとってこれらの体験は貴重なものとなると思います。

本プログラムでは、各ゼミナールでテーマを設定し、ゼミに所属する学生のグループが活動を進めて行くことになりますが、時には学生同士の意見の食い違いや、ちょっとしたすれ違いが起きることもあります。このような体験も学生がさらに一回り成長する要素となります。ゼミで決めた研究テーマをまとめ上げるために、どのように他者とかわりながら取り組みを進めて行くべきなのか、この取り組みの中で自分の役割は何であるのか、などを考えながら活動を行っていくことで、チームで活動することの難しさだけでなく、チームで何かをやり遂げたことの充実感や達成感を味わうことができます。

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」では、学生が地域の皆様と一緒に汗をかき、考え、そして楽しむことで、目先の地域貢献活動だけでなく、将来にわたって地域の活性化を担っていける人材の育成を目指しております。

地域の皆様には、日頃より本プログラムへの多大なるご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

平成 29 年 3 月

はじめに

長岡周辺地域の温泉資源の現状分析と情報発信 ～温泉☆ドキドキプロジェクト～



長岡大学教授／ゼミ担当教員 山川 智子

「楽しむ・伝える・掘り下げる」今年度の地域活性化ゼミ活動を進めてゆく上で、特に留意していた3点です。「情報発信」という言葉を掲げながら、一体何を伝えてゆくべきか、どんなところを掘り下げてゆけばいいのか、そして何より自分が温泉を楽しんでいるか？

昨年度の活動でも楽しいことは勿論たくさんありました。しかし、限られた時間の中であれもこれもやらなくてはならず正直しんどかった…という気持ちが学生共々残りました。眉間にしわを寄せながらお湯に浸かっているような活動を一体誰が喜んでくれるのか？と根本的な部分で軌道修正を検討する必要に迫られました。もっと温泉を楽しまなくては。

今年度はその反省も踏まえて、まず楽しむ！そして掘り下げて伝える！と敢えてお気楽な部分も保ちながら行動するように気を配りました。とは言っても、やはりまじめな課外活動ですので、しんどくなるような局面もいくつかありました。学生も担当も必死でした。

しかし、以前とはしんどさの質が変わったのも事実です。最初はおんぶに抱っこだった学生たちが次第に自主的に行動し始めました。「かわいい子には旅をさせよ」と言いますが、温泉へ行くという経験を通じて、学生たちが「地域の宝」としての温泉の魅力をそれぞれのリアルな言葉で語り出すようになったのです。これは大きな変化であり、担当としても一種の感動を禁じ得ない現象でした。拙さや浅さはあっても、自分たちで考えて行動する、自分の行動に責任を持つという、実社会で一番重要なものを体得していったプロセスを目の当たりにしました。まだまだ伸びしろはいっぱいありますが、先行きが楽しみです。

昨年度の課題であった温泉マップの作成も、ゼミ長の丸山貴樹くんが中心となって一応の形としてまとめることはできたのは何よりでした。「学生って結構面白いことを考えるな」というのが、今年度を通じてゼミ担当という立場から感じたことです。この報告書に掲載しきれなかったものは山ほどありました。但し、伝えるということは何かを削って焦点を明確にするということです。その意味でも「伝える」という言葉を実感した1年間でした。

温泉の課外活動というのは、ある意味で漢方薬にも似たところがあります。飲んですぐに効果が出るというものではないかも知れないけど、じわじわと後から効いてくる。この活動を通じて学生たちが得たものがやがて実を結ぶことを今は心から願ってやみません。

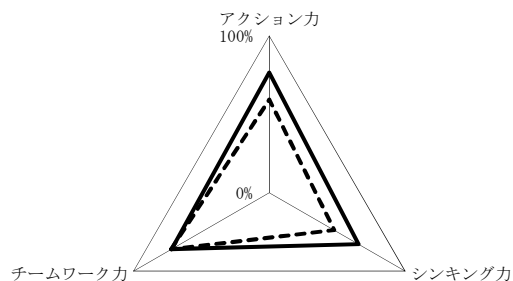
最後に、地域活性化のアドバイザーとして多大なご協力をいただきました『よもぎひら温泉和泉屋』金内智子さま、新潟大学の村山敏夫先生、その他お力添えをいただいた皆様に心から感謝申し上げます。

平成 29 年 3 月

平成 28 年度 学生による地域活性化プログラム 社会人基礎力の上昇度

地域活性化プログラムにおける学生教育の目標は、社会人基礎力の向上、ビジネス展開能力の向上、専門的スキルの向上が目的である。平成 28 年度学生による地域活性化プログラムに参加した 8 取組の学生の「社会人基礎力」の伸び具合について、学生とゼミ担当教員にアンケートを実施した。アンケートは取組に参加した学生一人一人を対象に、社会人基礎力の変化を評価する形で実施した。学生は自己評価（有効回収 64）であり、教員は各ゼミ生についての評価である。

＜社会人基礎力＞の上昇度



★「社会人基礎力」

＝「アクション力」「シンキング力」「チームワーク力」が上昇

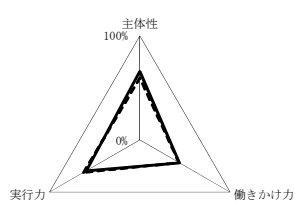
3 つの社会人基礎力の上昇度（取組前と取組後の比較）は、学生の自己評価と教員評価の間に乖離がある。学生の評価が高いのがアクション力で、地域活性化プログラムの取り組みの中で、学生が自分なりに挑戦している姿勢がうかがえる。

今後の取組においては、今年度の結果に現れている学生評価と教員評価の差を小さくすると同時に全体的な上昇度を高めていくことに対して、継続的に検討していく必要がある。

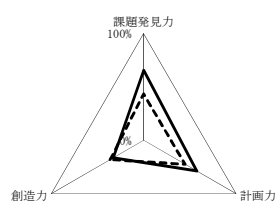
＜社会人基礎力＞の上昇度

	学生評価	教員評価
アクション力	76. 6%	59. 4%
シンキング力	65. 6%	47. 8%
チームワーク	71. 9%	72. 1%

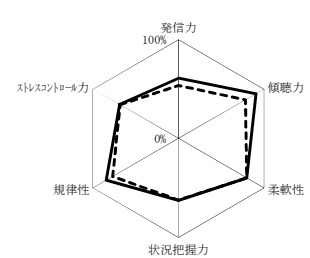
＜アクション力＞の評価



＜シンキング力＞の評価



＜チームワーク力＞の評価



	学生評価	教員評価
主体性	65. 6%	59. 4%
働きかけ力	43. 8%	43. 5%
実行力	59. 4%	62. 3%

＜アクション力＞

アクション力の 3 つの指標を比較すると、主体的には取り組めたと思っている学生の割合は高いが、教員の評価は低くなっている。

学生はそれなりに積極的に活動を行っていると感じている一方で、教員は、もう一歩踏み出してほしいという期待感を持っているようである。

	学生評価	教員評価
課題発見力	65. 6%	43. 5%
計画力	57. 8%	44. 9%
創造力	32. 8%	36. 2%

＜シンキング力＞

学生の自己評価では、課題は見つけられたが、自分で計画して課題に立ち向かい、課題解決ができた学生は少なく、また創造力が極端に低くなっている。また、教員評価でも創造力については厳しいものになっている。昨年同様、シンキング力が弱い傾向があり、この点をどのようにして伸ばしていくかが課題として残った形である。

	学生評価	教員評価
発信力	60. 9%	53. 6%
傾聴力	90. 6%	78. 3%
柔軟性	79. 7%	79. 7%
状況把握力	62. 5%	62. 3%
規律性	84. 4%	76. 8%
ストレスコントロール力	68. 8%	68. 1%

＜チームワーク力＞

チームワーク力は、「アクション力」や「シンキング力」よりも学生評価と教員評価の類似性が高い。

学生の自己評価も同様であるが、教員の評価が発信力と状況把握力が低い点は、今後指導を強めていく必要がある。

平成28年度 学生による地域活性化プログラム

山川智子
ゼミナール

長岡周辺地域の温泉資源の 現状分析と情報発信 温泉☆ドキドキプロジェクト



【参加学生】 4 年生 丸山貴樹
3 年生 安仲諒人 藤田春樹
2 年生 高山汐音 永井想 武士俣大智

【アドバイザー】 よもぎひら温泉和泉屋 常務 金内智子氏
新潟大学 教育学部保健体育・スポーツ科学講座 准教授
村山敏夫氏

今年度の取り組みの目的と狙い：「長岡の温泉を、楽しむ・伝える・掘り下げる」
長岡の温泉をもっとよく知り、「地の宝」である温泉の良さを情報発信するのが狙いである。

長岡市及びその周辺地域にある温泉・入浴施設が、その地域においてどのような役割を担っているのかを実地調査することで、それぞれの強みや魅力をより深く掘り起こし情報発信することを目指している。

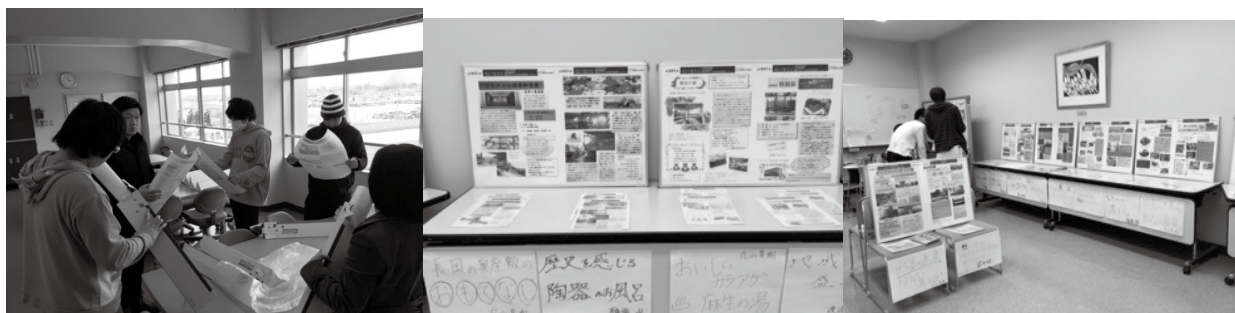
今年度の主な活動内容

- ①長岡周辺地域にある日帰り温泉や入浴施設に行き実地調査する。
- ②調査した各施設の特色や気づきをまとめる。
- ③気づきをもとに温泉施設の魅力を掘り下げて紹介パネルを作成する。
- ④悠久祭で施設紹介パネルの展示を行う。
- ⑤実地調査やヒアリングをもとに発表や報告書として、学生の視点から長岡市や周辺地域の温泉施設・入浴施設の現状の情報発信を行う。

今年度の活動で学生が実地調査をした施設

『麻生の湯』、『桂温泉』、『よもぎひら温泉和泉屋』、『えちご川口温泉』、『寺宝温泉』、『喜芳』、『アクアレー長岡』、『太古の湯』、『さくらの湯』、『長岡かまぶろ温泉』、『いい湯らてい』、『ごまどう湯つ多里館』、『花の湯館』、『秋葉温泉花水』、『ホテル丸松』、『しらさき荘』、『桂の関温泉ゆ〜む』、『カーブドッチヴィネスパ』、『よりなれ』、『ナステビュウ湯の山』、『よもやま館』、『福引屋』、『おいらこの湯』、『ホテル飛鳥』などの 24 施設。昨年度よりも充実した内容に。

寺宝温泉、えちご川口温泉、蓬平温泉 和泉屋、花みずき温泉 喜芳、麻生の湯、桂温泉、太古の湯、アクアレー長岡、灰下の湯 東栄館、志保の里荘、おいらこの湯、長岡かまぶろ温泉、秋葉温泉 花水、ソルト・スパ潮風、いい湯らてい、松之山温泉 ひなの宿ちとせ、かわら亭、竜神の館、あまやち会館、養楽館 延命の湯、エコトピア寿、越後長岡ゆらいや など昨年度作成した 22 施設に加えて、新規に花の湯館、ごまどう湯つ多里館、桂の関温泉ゆ〜む、カーブドッチヴィネスパ、ナステビュウ湯の山、ホテル丸松と 6 施設を作成して、合計 28 点の施設紹介パネルを悠久祭で展示し、温泉への理解を深めた。



長岡周辺地域の温泉資源の現状分析と情報発信

～温泉☆ドキドキプロジェクト～

山川智子ゼミナール

13E022 丸山 貴樹

14K003 安中 諒人

14K072 藤田 春樹

15K069 高山 汐音

15K080 永井 想

15K089 武士俣 大智

目 次

1	『温泉☆ドキドキプロジェクト』「温泉は地域の宝」地域の魅力再発見！（丸山 貴樹）	1
1-1	昨年度からの取り組み	
1-2	今年度の取り組み	
1-3	「3本の矢」楽しむ・伝える・掘り下げるの3点を意識しての研究活動	
1-4	温泉の魅力を伝えるには	
2	今年度の地域活性化活動の概要（安仲 諒人）	3
2-1	温泉の基礎知識の学習と心構え	
2-2	自主的に取り組んだ温泉施設の調査活動	
2-3	悠久祭での温泉紹介パネル展示活動	
2-4	温泉施設の情報発信調査	
	(1) スーパー銭湯越後長岡ゆらいや（長岡市）	
	(2) ナステビュー湯の山（十日町市）	
3	ゼミにおける情報発信の試み：施設紹介パネル作成での苦労（丸山 貴樹）	11
3-1	施設紹介パネル作成にあたって	
3-2	パネル作成の手順	
3-3	施設紹介パネル作成で苦労した点	
3-4	施設側との情報発信のやり取り	
	3-4-1 悠久祭での施設紹介パネル展示とその後	
	3-4-2 施設紹介パネルをお届けするまでの試行錯誤	
	3-4-3 各施設のパネルに対するリアクション	
	3-4-4 目からうろこのご指摘と試行錯誤の連続から得たもの	
	(1) 『花水』風間さんからのメールについて	
	(2) 『花の湯館』小川さんからのメールについて	
	3-4-5 施設紹介パネルを作成して得たもの	
4	ゼミ学生による温泉マップの作成と調査した温泉施設一覧	18
	（丸山 貴樹、安仲 諒人、藤田 春樹、高山 汐音、武士俣 大智）	
5	新潟大学・村山敏夫先生の温泉と地域資源を活用した健康づくり講座（丸山 貴樹）	27
5-1	健康づくりを考える入浴法と実践	
5-2	菩提寺山眺望トレッキングと自然体験	
6	よもぎひら温泉和泉屋金内智子さんからのヒアリング（丸山 貴樹）	33
6-1	よもぎひら温泉 和泉屋の概要とヒアリングの目的	
6-2	金内智子さんへのヒアリング内容：質疑応答形式	
6-3	【ヒアリング後の考察】金内智子さんからパワーをいただいて考えたこと	
7	宿泊における魅力と日帰り温泉との比較検討（武士俣 大智）	37
8	温泉を軸とした日帰りモデルプラン：車持ち実家暮らし（栃尾）の場合（武士俣 大智）	39
	(1) 太古の湯（寺泊）を中心としたモデルプラン	
	(2) おいらこの湯を中心とした栃尾満喫プラン	

9	長岡一人暮らしの女子大学生（車なし）が考える日帰り温泉プラン（高山 汐音）	41
9-1	今年度のゼミ活動で体験した温泉施設（2016年4月～11月）	
9-2	地域活性化活動を経験した上でお勧めしたい3つのプラン	
9-2-1	温泉初心者の女子学生が考える日帰りプラン	
9-2-2	長岡大学から行きやすく勧められる温泉施設	
	(1) 麻生の湯：すぐにでも温泉体験をしたいのならココ！	
	(2) よもぎひら温泉和泉屋：何度でも来たいと思える温泉ならココ！	
	(3) 越後長岡ゆらいやと華の湯：入浴と遊びを両立させるならココ！	
9-2-3	新潟市と長岡市の温泉施設・入浴施設事情の違いについて	
	(1) 交通アクセス面での違い	
	(2) 施設の所在地による違い	
9-2-4	温泉初心者が体験を通じて変化したこと	
	(1) 日帰り温泉一人旅で苦労したこと、得られたこと	
	(2) 地域活性化活動を通して得たこと	
9-2-5	経験を踏まえて温泉を3つの観点から考えた	
	(1) 地域の結びつきと「温泉の魅力」	
	(2) 温泉の持つ「力」を宿泊体験から得る	
	(3) 温泉において大切なこととは何か	
10	日帰り温泉におけるリラクゼーション体験の報告（永井 想）	47
11	横田百合江さん☆ドキドキ縄文カフェインタビュー（藤田 春樹）	48
11-1	横田百合江さんへのインタビュー（ヒアリング）の目的	
11-2	横田百合江さんへのヒアリング内容：質疑応答形式	
11-3	【インタビューからの考察】若者の利用者を獲得するためには	
12	ゼミ活動を通じての温泉調査の振り返りと総括（藤田 春樹）	52
12-1	温泉へ行くのにネックとなっていることと予算の見当	
12-2	温泉施設への設備上の要望と施設を選ぶ基準	
12-3	温泉について学生が思ったことを紙に書きだしてみた	
12-4	おわりに～	
	今年度の活動の振り返りと長岡市及び周辺地域の温泉・入浴施設に若者を呼び込むために	

参考文献・謝辞

今年度新規作成温泉紹介パネル

- 01 花の湯館（丸山 貴樹）
- 02 ごまどう湯っ多里館（丸山 貴樹）
- 03 桂の関温泉ゆ〜む（高山 汐音）
- 04 カーブドッチヴィネスパ（安仲 諒人）
- 05 ナステビュウ湯の山（藤田 春樹）
- 06 ホテル丸松（武士俣 大智）

1 『温泉☆ドキドキプロジェクト』「温泉は地域の宝」地域の魅力再発見！

1-1 昨年度からの取り組み

山川ゼミナールでは、昨年度中盤から長岡周辺地域の温泉施設・入浴施設の現状分析と情報発信をテーマに活動を行ってきた。温泉施設や入浴施設は、温浴や湯治だけではなく、地域の人たちの大切な交流の場や、地域の重要な観光資源としてかけがえのない存在となっている。また、地域のイベント等のチラシが置いてあったり、ポスターが貼られていたり、地域の情報を取り入れることが出来る場所でもある。温泉へ行くことで地域の魅力を再確認できるのは素晴らしい。温泉は、文字通り「地域の宝」と言える存在だ。

「長岡はドキドキする温泉の宝庫だ！」これは今年度のゼミ活動を示したキャッチコピーである。長岡市や周辺地域には数多くの温泉施設や入浴施設が存在しているが、あまり認知されていないところが意外と多く、半ば宝の持ち腐れ状態なのは大変もったいない。

1-2 今年度の取り組み

今年度の山川ゼミナールでは、「若者を温泉に！」という目標を掲げて、どうすれば学生や若い人を温泉施設に呼び込めるのかを考えながら活動してきた。その一端として今年度は悠久祭で、今までに作成した温泉紹介パネルの展示をした。それ以外にも実際に調査を行った温泉や入浴施設をまとめた温泉マップの作成も試みた。昨年度に続いて今年度もできる限り多くの温泉・入浴施設を調査した。毎回レポートにまとめることで各施設の特色などを把握し、施設への理解を深めた。また今年度は「温泉施設について深く掘り下げること」、「温泉施設の魅力をより強く伝えること」、そして「何よりも自分たちが温泉を楽しむこと」以上の3点を心がけて、いわば「3本の矢」として温泉調査研究を実施した。

写真 01 山川ゼミ温泉調査研究の「3本の矢」



1-3 「3本の矢」楽しむ・伝える・掘り下げるの3点を意識しての研究活動

以前に調査した温泉施設に繰り返し行くことで、施設への理解をより深く掘り下げることができた。一度施設を利用しただけでは気づかなくても、新たな魅力の発見があった。

例えば『よもぎひら温泉和泉屋』さんである。最初は入館するだけでも施設の豪華な雰囲気に圧倒されていたのだが、何度も伺うことでさまざまな気づきを得た。先日は大浴場の入り口前にネイルの除光液が置いてあるのに気づいた。当初は接客対応の丁寧さにひたすら驚いていたが、何度か行くうちに直接お客さんに接客をしない場所でも、施設の隅々までお客さんへの気遣いがなされていることを認識した。『よもぎひら温泉和泉屋』さんのお客さんへの「思いやり、おもてなし」に改めて感動した。

温泉の魅力を強く伝えるには、まず自分たちが温泉を楽しまなくてはならないと考えて、積極的に温泉を楽しんだ。たまたま同じタイミングで入浴していた県外からの利用客と仲良くなり、話が弾んでついつい長風呂になったこともあった。改めて裸の付き合いの温泉ならではの楽しさを体感した。このように初対面の方とも仲良くなれるのは温泉の楽しみの一つであるといえる。

新潟市秋葉区の『花の湯館』さんに、温泉調査や村山敏夫先生の講座の際に何度か訪問することで、受付のスタッフの方が私のことを覚えてくれた。施設の方々と仲良くなり、会話ができるようになることも温泉施設の一つの楽しみかた、と自分なりに発見できた。

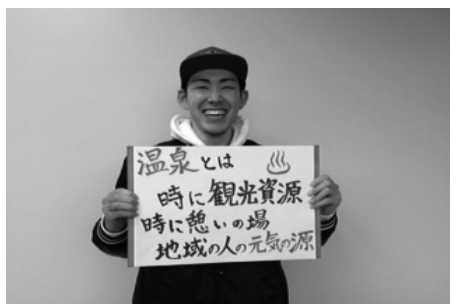
『よもぎひら温泉和泉屋』さんで宿泊体験をすることで日帰りの立ち寄り湯では味わえない夜の「らうめん処」や、午前中で売り切れてしまう人気の高い温泉まんじゅうの購入、ゼミメンバーと夜中までの談笑に朝風呂の堪能など、昨年度以上に温泉施設を楽しめた。

1-4 温泉の魅力を伝えるには

温泉の本当の魅力は、実際に体験した人にしかわからない面も多く、インターネットやパンフレットでは伝えきることができない。しかし、実際に温泉施設を自分自身が楽しむことで、その魅力や楽しさを伝える際に説得力が増すと思う。施設を利用した時の接客の対応、温泉の感触や気持ち良さ、施設の雰囲気といった実体験はリアルな情報だ。実体験を的確に伝えることで、聞いた人が「温泉へ行ってみたい！」という気持ちになるのではないか。今の時代インターネットで検索をすると沢山の情報が出てくるが、そういう時代であるからこそ自分自身が実際に体験したことに価値があると考えてる。

写真 02 (左)「温泉とは何か」の提言のひとつ

写真 03 (右)『花の湯館』にて。アヒルのマスコット「こすどん」との記念撮影



2. 今年度の地域活性化活動の概要

2-1 温泉の基礎知識の学習と心構え

今年度のゼミでは、「地域の宝」としての温泉施設の実地調査研究だけでなく、そのための準備や企画の検討など様々な活動を行ってきた。以下に主な取り組みの概要をまとめた。

表 01 今年度のゼミ活動の取り組み一覧

取り組み内容	内容の詳細
①昨年度の取り組みの振り返り	昨年度調査に行った施設の確認と取り組み内容の確認
②温泉の泉質の学習	温泉の条件や細かい泉質の確認、県内に多い泉質の確認
③温泉利用の歴史	温泉の利用の起源などを様々な資料を使って学んだ
④温泉施設の実地調査	ゼミの時間に施設を訪れ、情報だけでは分からない細かな点を調査
⑤温泉パネルの新規作成と修正	今年度新規に訪れた施設を中心に新たに温泉パネルを作成し 既存のパネルを修正
⑥宿泊体験と中間レビュー	和泉屋さんにて宿泊での入浴を体験し日帰り入浴との比較、周辺地域の調査。成果発表会に向け、アドバイザーの方に中間報告
⑦悠久祭展示活動(アンケート実施)	悠久祭で温泉パネルを展示、同時に温泉に関するアンケートも実施
⑧成果発表会の準備と実施	成果発表会に向け発表原稿の準備・読み合わせ、発表の実施
⑨活動の振り返り	今年度の活動の振り返りと反省・感想

実際に温泉に出かけて調査することから、よそのゼミの友人たちからはよく「楽しそう」とか「楽そう」と言われたが、決してそんなに甘い活動ではなかったと断っておきたい。確かに温泉に浸かってリラックスするのは心地よいが、入浴にはヒートショックや湯あたり、転倒によるケガなど意外と様々な危険が伴っている。一歩間違えれば死に至る場合もありうる。だからこそ安全面には十分に注意を払った。「楽しそう」や「楽そう」といった安易な甘い考えでは余計な危険を招くし、せっかくの安らぎの時間を無駄にしかねない。

このように周囲から「楽しそう」などと思われやすい活動のため、ゼミ学生として人一倍行動には気を付けた。常に節度ある行動を取るようにと心がけた。



写真 04 ゼミでの活動の様子（温泉パネル発送の準備中）

2-2 自主的に取り組んだ温泉施設の調査活動

温泉について学ぶため、調査で長岡市やその周辺地域の様々な温泉施設を訪れた。温泉施設の情報発信をするために、ゼミ学生が調べた施設の情報や交通アクセス、ゼミ学生が考えた施設のキャッチコピー等をまとめた「温泉レポート票」や施設の特色や強み、弱みや脅威、調査での出来事や感想などをまとめた「湯めぐり日記」を作成した。(次ページにフォーマットを掲載) 始めは勝手もわからず、作成作業にも慣れていなかったため1件当たりの作成時間にかかる上に、内容もあまり良くないなど課題だらけではあった。回数を重ねるうちに押さえるべきポイントもわかり、時間をかけずに比較的良好な内容のものが作成できるようになってきた。

ただ特徴が似ている温泉の時や、良い文言が思い浮かばない時は大変で、後期の調査で作成する際はどうしても似たような内容になってしまった。いずれにしてもきつい作業であったことに変わりはなく、とりわけ各施設の強みや魅力を伝えるキャッチコピーの作成作業は何回やっても大変だった。この調査で培った経験や観察力は、アルバイトで次の作業をすればいいのか自分で考えて行動しなければいけない時やお客さんの対応をする時、大学の講義において重要なまとめのポイントを探す時や他の講義でのレポートを作成する時など、日常の幅広い状況で十分に役立っている。

夏には学生自らが調査の計画を立てて、実地調査を行った。初めての自主的な実地調査の計画で、さらには一人ひとりの温泉レポート票や湯めぐり日記が重要となる。しっかりできるか不安であったが、普段の生活でここまで物事を計画して実行することがないため良い経験になった。この経験は確実に自分を成長させてくれたと感じている。夏の調査で自分が行った温泉は、施設や風呂の大きさは関係なく、フロントの人が気さくな温泉や自宅のような居心地の良い温泉だった。お客さんに素っ気ない対応をしたり、ゆっくり休憩できない温泉は好まない、と自分の好みもはっきりした。

秋には宿泊を体験した。日帰り入浴と宿泊して入浴することの双方のメリットや違いを比較検討した。宿泊した際に近くの他の温泉施設にも行ったら、一緒に入浴していた富山から来ていた方から話を聞くことが出来た。以前に会社で来たことがあり、その時にすっかり気に入って、また会社の仲間と富山からわざわざ来たという。翌日の朝には施設の周辺を散策し、他にどのような観光できる場所があるのか、温泉と絡めて若者をどのようにしたら温泉に呼び込めるのかを考えた。

この調査を通じて長岡市内だけでも特色豊かで多くの人に愛されている素晴らしい温泉がたくさんあること、温泉に入る時の正しい入浴法やマナーの大切さを体で実感した。



写真 05

『よもぎひら温泉和泉屋』さんにて、
宿泊体験の時の様子。(11月1・2日)
4人部屋で見晴らしが最高に良かった。

写真 06 温泉レポート票のフォーマット

長岡大学

学生提出用

平成 28 年度 山川ゼミナールⅢⅣ日帰り温泉レポート票

日帰り温泉・入浴施設の名称			
記入者の学籍番号		記入者氏名	
記入年月日 (調査した日を記入)	平成 28 年 月 日 () : ~ :		
温泉の泉質・湯温 (温泉以外は湯温)			
移動手段 (該当するものに○)	・自家用車(山川) ・自家用車() ・バス ・JR ・タクシー		
日帰り温泉・入浴施設の住所・連絡先 担当者のお名前	〒 新潟県 TEL FAX *担当者名: *ヒアリングの際は必ず記入		
営業時間と定休日 (不定休なども記入)	: ~ : 【定休日】		
大人 1 人入浴料金 (割引があればそれも併せて記入する)	円 入浴料金の印象 ・高い ・ちょうどよい ・安い ・わからない		
浴槽の種類 (男湯・女湯の別も)			
館内の附属施設 (休憩室や食堂など)			
主な効能 (温泉の適応症)			
宿泊施設の有無 (1泊2日基本料金)	・なし ・あり <基本料金: >		

長岡大学

学生提出用

浴槽の備品 (アメニティーなど)			
タオルセットの設定 (フェイスタオル)	・入浴料金に含む ・別途料金設定 円		
入浴マナーの掲示 (注意喚起など)	・明確に掲示されている ・掲示されている ・特に見当たらない		
館内の清掃状態 (男湯・女湯の別も)	・とても行き届いている ・行き届いている ・少し気になる点あり		
交通アクセス (JR、バスなどの公共交通機関や自家用車利用でのアクセス、送迎などの有無)			
施設のサービスについての感想 (男湯・女湯の別も)			
入浴客の特徴 (男湯・女湯の別も)			
バリアフリーの配慮 (男湯・女湯の別も)			
入浴施設の強み			
入浴施設の弱み			
入浴施設のキャッチコピーを作ろう! (魅力を伝えるように)			
全体的な感想			

写真 07 湯めぐり日記のフォーマット

悠久祭で行うゼミの活動報告の展示に向け、温泉施設の情報や魅力をわかりやすく伝えるために「温泉紹介パネル」を作成した。作成ではその施設の魅力を最大限伝えられるようにし、いかに見やすくするかを工夫して作った。前年度に作成した分はヘッダーを最新版に書き換える作業もあった。新規に作成したものは施設ごとのイメージの表現や色使いがとても難しく、ゼミ学生同士や先生と全員の協力でようやく完成した。悠久祭での展示では原本を A2 サイズに拡大したものと原本を増刷して一緒に置いておいたら、持ち帰って下さる方がいるほどだった。アンケートや全体の雰囲気からも予想以上に好感触を得た。

– 6 –

悠久祭では作業をする人数の不足にも悩まされた。実質的に作業に従事したのは3年生2人と4年生1人の3人だけだった。それでも準備から後片付けまで中心メンバーとして活動したことで、とても内容の濃い経験をする事が出来た。

また、温泉紹介パネルの展示の他に温泉に関する実態の把握の為のアンケートを行い、実に130人以上の方から協力していただくことが出来た。想定していた以上に温泉に対する関心が高く、多くの方が長岡市内や周辺地域の温泉をたくさん知っており、実際に行ったことがあるとわかった。昨年度長岡大学の学生を対象に実施したアンケートと比較して貴重な知見を得ることが出来た。アンケートに協力していただいた方の中には自分のお気に入りの温泉の情報を教えて下さる方もいらっしやった。展示に来ていただいた方にゼミ生のおすすめの温泉や聞かれた施設の説明をすることがあったのだが、その際に自分たちの今までの活動で得た経験や知識が余すことなく役立った。



写真 08 悠久祭の展示で「温泉」をテーマとしたキーワードを考えている様子



写真 09 悠久祭の展示でアンケートに回答してもらっている様子

2-4 温泉施設の情報発信調査

調査した温泉施設・入浴施設が、情報発信をどのように行っているのかは重要である。近年利用者が急増している SNS やインターネットのサイトを活用しているのか、紙媒体としてパンフレットを作成しているのかを調べて以下の表に示した。

表 02 各施設の情報発信方法 一覧表

施設名	公式サイト	Facebook	Twitter	LINE	パンフレット
えちご川口温泉	○	○	×	×	○
ソルトスパ潮風	○	○	○	×	○
桂温泉	○	○	×	×	○
喜芳	○	○	×	○	○
灰下の湯 東栄館	○	×	×	×	×
寺宝温泉	○	○	×	×	○
いい湯らてい	○	○	×	×	○
スーパー銭湯越後長岡 ゆらいや	○	○	○※1	○	○
長岡かまぶろ温泉	○	○	○	×	○
太古の湯	○※2	○	○※2	×	○
麻生の湯	○	○	○	×	○
アクアレー長岡	○	○	×	×	○
養楽館 延命の湯	○	×	×	×	○
志保の里荘	○	×	×	×	○
蓬平温泉 和泉屋	○	○	○	×	○
招福の宿 福引屋	○	○	×	×	○
蓬平温泉 よもやま館	○	○	○	×	○
エコトピア寿	○	○	○	×	○
おいらの湯	○	○	×	×	○
あまやち会館	○	○	×	×	○
かわら亭	○	○	×	×	○
松之山温泉 ひなの宿ちとせ	○	○	×	×	○
花水	○	○	×	×	○
竜神の館	○	×	×	×	○
しらさぎ荘	○	○	×	×	○
さくらの湯	○	○	×	×	○
カーブドッチ ヴィネSPA	○	○	×	×	×
游雁の湯 よりなれ	○	×	×	×	○
桂の関温泉ゆーむ	○	○	×	×	○
咲花温泉 ホテル丸松	○	×	○	×	○
ホテル飛鳥	○	○	○	×	○
ナスデビュウ湯の山	○	○	○	○	○
※1 施設内のリラクゼーションルームのアカウント					
※2 ホテル飛鳥のサイトまたはアカウントに含む					

改めて調べてみると、今や公式サイトやパンフレットを作成し、Facebook を利用して情報を発信することはさほど珍しくないというのがわかった。一方で、Twitter や LINE の利用率はまだ低く、Facebook も施設の公式アカウントがあっても更新が数年前で止まっている施設もあった。中には載っている情報がかなり古く、すでにやっていないサービスなどについての情報が修正されていないところもあった。一口に SNS での情報サービスと言っても、相当に温度差というか、施設が提供する情報の質や量の違いがあった。

調査前は「SNS の利用はまだまだそれほど進んでいない」と予測していたのだが、Facebook の利用率が想像以上に高い。詳しくは後述するが、今までの携帯のメール会員の代わりに着信拒否などの心配がない SNS を利用している施設もあり、SNS が持つ手軽さが温泉施設側にも、見るお客の側にも好まれている印象を受けた。

SNS の活用は比較的若い世代の利用が高いため、若い人に温泉をもっと利用してもらうためにも重要である。ちなみに今年度のゼミメンバー自身の SNS の利用は、メールと LINE は 6 名全員がしており、ゼミ長は Facebook、Twitter も活用しているらしい。今後はただ情報を発信するだけでなく、その活用をより洗練させていく必要があると思う。

情報発信について特に熱心に取り組んでいる施設を 2 つ以下に紹介する。

(1) スーパー銭湯越後長岡ゆらいや（長岡市）

公式サイトへの更新が頻繁に行われているだけでなく、温泉に関する情報だけではなく、リラクゼーションに関する情報も SNS から得られるようになっているのも重要である。

公式サイトには有名な CM の動画と音楽のリンクがあり、その他の色々な SNS のリンクもサイトのトップページから行けるようになっているのも便利である。新着情報もサイトを開いてすぐ確認できる位置にあって見やすくなっている。SNS の更新状況もサイトから確認しやすいようになっている。



写真 10 ゆらいやの Facebook から引用

(2) ナステビュウ湯の山（十日町市）

県内においては一番といっても過言ではないほど SNS や公式サイトに力を入れている。中でも社長の高橋さんの熱心さは半端ではない。ブログをほぼ毎日更新している他に **Twitter** も社長自らがやっており、頻繁に施設や周辺地域について書いている。施設の情報だけではなく、普段の仕事についても細かく書かれており、この施設の隅々まで知ることが出来る。実にさまざまな内容の記事がある。**Facebook** にも多くの写真や動画が貼っており、フォローしている人の数も県内の温泉施設としては群を抜いている。

公式サイトも使いやすく、リンクには施設の公式 **Facebook** や社長のブログだけでなく、周辺地域の観光に関する情報が載っているサイトへのリンクがあり、あろうことか県内の他の日帰り入浴施設のおすすめが書いてあるページのリンクまで載っていて、温泉が好きである気持ちが伝わってくる。情報がたくさん載っていて見るだけでも楽しくなる。思わず行きたくなるようなサイトであり、県内においてこの施設の情報発信能力は秀でている。

2017.1.22 (日)

f 1 t 0 G+ 0 B! 0

温泉の事

泉質名から分かる事、⇒温泉の温度について。



ナステビュウ湯の山の泉質名はナトリウム・カルシウム ― 塩化物泉（弱アルカリ性・高張性・高温泉）という泉質名です。

写真 11 ナステビュウ湯の山の社長のブログ「ほっこりと湯の山ブログ」より

特に印象が強かった 2 つの施設を示したが、他の施設にもそれぞれに特徴や魅力はある。他のゼミがやっているようにゼミ活動自体の **Facebook** や **Twitter** の作成、あるいは温泉紹介パネルなどをダウンロードできるようなホームページの運営など、いろいろと考えてはみたが、そこまで手が回らなかった。とは言っても、ゼミ活動を通じて情報発信の大切さを実感し、報告書で温泉マップを示せたのは一応の情報発信の成果だと思っている。

3 ゼミにおける情報発信の試み：施設紹介パネル作成での苦勞

3-1 施設紹介パネル作成にあたって

山川ゼミでの約1年半の地域活性化ゼミ活動は苦勞の連続だった。周囲からは「温泉に行けて楽しそう」「温泉に入って単位がもらえるなんて楽でいい」「ただの湯巡りじゃん」と相当にお気楽な活動と思われていた節はあるが、実際に活動した身としては真逆だった。

前学長の内藤敏樹学長からの勧めもあって、昨年度後期から地域活性化プログラム活動に加わった。途中からの参加で他のゼミナールより短い活動期間の中で温泉・入浴施設の調査、活動報告発表、活動報告書の作成を行わなければいけなかった。時には温泉施設に宿泊調査へ行き深夜までヒアリングと打ち合わせを行った。宿泊してもあまりゆっくりと休めず、翌朝すぐに次のヒアリング先へ向かうこともあった。ホテルニューオオタニでの発表会も報告書作成も、きちんと動けるメンバーが少ない中で必死に活動を行ってきた。

ゼミ活動の情報発信として重要な位置づけなのが、調査した温泉施設・入浴施設の紹介パネル作成である。昨年度の報告書でも最も力を入れたところであり、見た目よりも大分手間がかかっている。以下にパネル作成の手順を示すと共に情報発信について考えた。

3-2 パネル作成の手順

手順①施設名の作成

最初に行う作業は主に施設名の作成である。ワードで地域活性化のフォーマットを開き、施設名から施設の雰囲気が感じられるように書体やフォントの色を選び、インターネットでフリー素材のイラストなどを探し二つを組み合わせる。例を挙げると、海沿いの施設は「海 イラスト」などでインターネット上にあるフリー素材を検索し、施設の雰囲気と自分自身が感じたイメージに近いイラストを探し出す。そこに青や水色のフォントで施設名を打ち込む。

手順②施設紹介文の作成

施設のキャッチコピーや施設を紹介する分を考え、テキストボックス内に打ち込む。

手順③施設の基本情報の記載

主に施設の利用料金、営業時間、定休日、浴槽の種類、泉質、効能、主な施設、住所などをテキストボックスで打ち込む。

手順④施設の写真を挿入

施設の外観や、浴室内の写真などをパネルに挿入することにより、パネルを見た人が施設の雰囲気をイメージしやすくなる。また浴室の写真を貼ることで、「浴槽からこの景色を見てみたい」「この面白そうな浴槽に浸かってみたい」などの施設に興味を持ってもらいやすくなり、施設を利用してみたいという気持ちが湧く。

手順⑤「学生からのひとこと」の作成

この「学生からのひとこと」の覧には実際に施設を利用して、学生なりに感じたことや思ったことを自分たちの言葉で書いてある。

手順⑥全体のレイアウトの調整

施設紹介パネルに必要な情報を全て打ち込んだら、最後の調整となる。施設の基本情報や学生からのひとことが書かれたテキストボックスの配色、フォントの書体や色が施設に合っているか確認を行う。そして写真や図、テキストボックスの配置を綺麗にパネルフォーマット上に整え基本情報や文章に間違いがないか確認を行う。

手順⑦添削

パネルが出来上がったらゼミ担当のチェック・添削を受ける。各施設の担当者の方からも確認をしてもらい修正点がある場合は修正を行い、特に修正がなければ完成となる。

3-3 施設紹介パネル作成で苦勞した点

以上の手順を踏まえて作成する施設紹介パネルは、学生が作成してゼミ担当の手直しを受ける前の段階で、パネル1枚に対し平均6時間から10時間の作成時間がかかっている。またゼミ担当の手直しや確認の時間も考えると、学生がパネル作成にかけた時間のゆうに2倍から5倍の時間がかかっているパネルもある。とにかく時間がかかって苦勞をした。

どうしてここまで時間がかかるかというと、主にパネルのレイアウトと施設情報の修正である。まずパネルを作成する際に施設を紹介する文面や基本情報をテキストボックスで入力する。施設の雰囲気をイメージしながら、文字の大きさや色、書体などを考慮する。パネルを見た人が施設の雰囲気を感じ取れるような物を目指した。例えば和の雰囲気が印象的な施設では黒や茶色を基調とする。木目のイラストをインターネットのフリー素材から探してきて、文字は行書体とした。パネルが全体的に出来上がると次は文字の大きさの調節を行った。施設紹介の文章が長い場合は文字の大きさを小さくして枠内に収めるが、限られたスペースのため、うっかりすると文字が小さすぎて読みづらくなったりする。

施設の利用料金や営業時間など、大きく表示した方がいい情報もあり、パネルの空間をいかに無駄なく埋め、文字が読みやすくなるように大きさを工夫した。バランス良く1枚のパネルに情報を収めるために試行錯誤を繰り返し完成に時間が掛かってしまった。表示するパソコンの仕様によってはレイアウトのズレが生じることもあった。文字・写真・図などの配置のズレを直そうとすると今度は、その横に配置されていた図やテキストボックスがズレを生じる。パネルの構成が細かければ細かいほど修正の範囲が大きくなりパネル全体のズレへと繋がってしまうのである。パネル作成は見た目よりもはるかに根気のいる細かい作業なのであった。この作業がパネル作成時間の大半を占めることとなった。

さらに施設の情報の修正がある。温泉施設や入浴施設の公式ホームページなどのインターネットの情報を引用しても、ホームページと実際の施設の状況が変わっていることなどが多々あった。学生ならではの目線でコメントを設けたが、施設の担当者にパネルを確認していただいた時に担当者側の考え方やこだわりと、学生が調査して感じたことに違いが

あり、学生の言葉を残しつつ施設側の拘りを反映させるのに何度も繰り返し施設担当者とパネルの文言修正についてのやり取りを行った。昨年はこの作業で毎日 4 時間しか眠れず寝不足が続いた。精神的にも肉体的にもかなりダメージを受けていたのは事実である。

3-4 施設側との情報発信のやり取り

3-4-1 悠久祭での施設紹介パネル展示とその後

今年度は昨年度よりも計画的に情報発信の場を作れたのは収穫だった。昨年度作成したパネル 22 点と今年度新たに作成したパネル 6 点を悠久祭で展示して施設紹介を行った。予想以上に多くの方々から見て頂いて好評だったことに勇気づけられ、実際に展示した A2 サイズのパネルを各施設に見てもらって感想や意見を頂くことにした。

3-4-2 施設紹介パネルをお届けするまでの試行錯誤

ところが、作成したパネルのサイズが大きくどのように送るかというところで思い悩み、送付状の書きかたもわからずじまいですっかり時期を逸してしまった。1 か月以上も経過してから、業を煮やしたゼミ担当から学生が直接パネルを渡しに行くようにと指示された。『花の湯館』、『花水』、『ごまどう湯っ多里館』、『喜芳』、『アクアーレ長岡』、『おいらこの湯』の 6 か所は実際に学生が伺った。その他の施設については全部ゼミ担当が持参した。ゼミメンバーが協力し一気にやっていたらそんなに時間をかけなくても済んだのだろうが、手際が悪かったのと作業の分担をうまくできなかったことが大きな反省点となった。郵送ではなく持参という形を取ったのは、時期を逸したことで仕方がない面もあったが、自分たちの活動を知ってもらおうという目的もあった。手間はかかったが、実際に施設側のリアクションが肌で感じ取れたのは大いに参考になった。主に学生たちが持参したところから FAX やメールでコメントをいただけたのもありがたいことだった。



写真 12 (左) それぞれの温泉紹介パネルの内容を見直ししているところ。

写真 13 (右) 温泉紹介パネルの梱包作業をゼミメンバーで協力して行っている。

3-4-3 各施設のパネルに対するリアクション

(1) 花の湯館

送付状が完成し最初にパネルを持って行った。担当者の小川さんは不在だったが受付のスタッフの方に事情を説明しパネルをお渡したところ大変親切に迎え入れてくれた。後述するが、小川さんからはとても示唆に富んだコメントをいただくことができた。

(2) 花水

タイミングが良く担当者の風間さんがいらっしゃったので直接パネルをお渡しできた。風間さんは「数ある温泉の中から花水を選んでくれてありがとうございます。」と言ってくださった。その際に風間さんから、その日のイベントの「ワイン風呂」が行われているメディテーションバスについての詳しいお話を聞かせていただき、とても参考になった。

今回パネルを直接お渡ししたことで、「清潔、リラックス、安全」の3点を常に心がけている『花水』さんの拘りを聞くことができた。後日メールでもコメントをいただいた。

(3) アクアーレ長岡

(4) 旬食・ゆ処・宿 喜芳

3年生2人がパネルを持って行ったところ、両施設共にスタッフの方が喜んでくれたようだ。特に『アクアーレ長岡』からは後日FAXでメッセージをいただいて有難かった。

(5) おいらこの湯

2年生男子1名が自宅に近い『おいらこの湯』へパネルを持って行ったところ、スタッフの方が喜んで下さったようだ。昨年度調査へ行った時のことを憶えていてくれたらしい。今年度はゼミ活動として伺えなかったが、好意的な対応をして下さったのは嬉しかった。

(6) ごまどう湯っ多里館

パネルを渡した受付のスタッフの方が喜んでくれた。ちょうど雪かきをしていた最中の館長さんもこちらの活動を憶えていて下さったのは個人的にも嬉しかった。

(7) その他

ゼミ担当が持参した『ゆらいや』の大関さんからも次の日に早速FAXをいただいた。悠久祭のパネル展示の際に、割引券を置いておいたら来た人が結構持っていつてくれた。さらに、『灰下の湯 東栄館』のご主人も持参したパネルを早速玄関口に貼って下さったという。これらの施設には今年度の活動としては伺えなかったが、とても有難いことである。

施設によって反応もさまざまだったが、それでも紹介パネルを作成した甲斐があった。直接パネルを渡すことで施設のリアクションをその場で感じることもできたのはいい経験となった。ただ手順に沿って作成するのではなく、「どうすればその施設の魅力をうまく伝えることができるのか？」と考えに考えた姿勢をどこかで汲み取っていただけたと思う。

3-4-4 目からうろこのご指摘と試行錯誤の連続から得たもの

紹介パネルを施設にお渡しする際、パネルについての率直な感想やご要望、さらにアドバイスがあればお願いします、と一言添えた。特に、以下に挙げる2つの施設の担当者からのコメント(下線部で示したもの)は大変に参考になったので引用させていただいた。

(1) 『花水』 風間さんからのメールについて

基本情報の他にも、併設されているリラクゼーション サロンやレストラン、貸切風呂や貸切個室などの写真も施設紹介パネルに取り入れることで、パネルの魅力を更に高められるのではないかな。

確かに併設されている施設を取り上げることで温泉以外の施設の魅力を発信でき、より沢山の方に施設について興味を持ってもらえるかも知れない。単に温泉に入るだけでなく利用客のニーズに合わせてさまざまなサービスを選択してリラックスした時間を味わって欲しい、という思いが伝わってきた。施設紹介パネルのスペースの都合上、あまり細かい内容まで記載できなかったのだが、風間さんのアドバイスは本当にその通りだと思った。温泉以外の施設の魅力も盛り込めるような物を作成すれば、より多くの人に興味を持っていただけるパネル作りが出来ることに気づけた。

(2) 『花の湯館』 小川さんからのメールについて

施設紹介パネルについて、学園祭での調査活動の展示に使われたということですが、作成の目的が何かわかりにくいと思いました。各施設の何を紹介したいのかが、見えてこない気がします。自分の行った施設を他の人にも行ってもらいたいというためのパネルなのか？一覧で他の施設との比較を行うためのものなのか？このパネルで伝えたいことは何なのか？

インターネットで集めた情報で作っても、表層的なことしか書けません。

本当にいいものを作ろうと思ったら、勇気をもって施設にアポ取りの電話をして訪問理由を述べて、図々しく何度もおしかけ、そこで働くスタッフに話を聞き、ホームページからの転載ではなく、館内の写真を自分で撮影して、自分の言葉で書くことがなによりも大事だと思います。それは、学生だからできることでもあります。なぜなら、学生だから多少の失礼も許されるし、周囲も育てようという気持ちで接するからです。臆せず、電話してぶつかってきてください。そうやって、得た情報と知識と写真は、他のどの日帰り温泉本やインターネットの情報にもない独自の価値あるものになります。それでこそ、初めて、読む人に訴えることができる文章になると思います。

情報を得るには、まずは人と会って話を聞くことだと思います。すべてはそこからです。断られてもめげないで、また次の人にトライしてください。そこから人生を変える出会いがあるかもしれません。

正直言って、小川さんからのメールを見た当初はとてもショックを受けた。作った施設紹介パネルが全否定された気持ちにすらなった。しかし、小川さんからのメールを何度か読み返すことで昨年度と今年度では明らかにパネル作成のテンションが違っていることや、今の自身に足りないものを気づかせていただけた。小川さんには本当に感謝をしている。

昨年度は1枚のパネルを作成するのに5時間近くかかっていたが、今年度は1枚3時間程度でパネルを作成できるようになった。昨年度の経験を踏まえ、パネル作成の手順やポイントがわかってきて効率良くパネルを作れるようになったものもある。しかし、パネルを全体的に見ても、昨年度作成したパネルの方が拙い面も含めて何とも言えない迫力がある。忙しさを理由に意識していないところで手を抜いていたのかも知れない。このメールのおかげで、小川さんが私たちに対して真剣に考えてくれていることがわかって嬉しく思えた。

上記で引用した部分以外にも、小川さんからは細かく貴重なアドバイスをいただいた。そこでパネルを修正することにした。最初にご指摘を受けた「基本情報の欄の大きさ」や「学生の考察があったほうが紹介に奥行きが出る」といった言葉をただ鵜呑みにして修正を行い「とにかく早く返信を行わなければ失礼だ」と焦って修正パネルを送ってしまった。

翌日そのパネルを見たゼミ担当からきついダメ出しを受けた。パネルとしてのバランスも悪くなり、文字も読みにくいし、かえって小川さんを困らせてしまうようなパネルだと言われた。もう一度小川さんから頂いたアドバイスをよく考え直して改めて修正を行った。

大きく分けると4ヶ所修正を行った。まずは「施設の基本情報」の修正である。小川さんからは「施設の基本情報は今の時代インターネットで検索できる」とご指摘を受けて、最初の修正では基本情報を極端に小さく記載した。しかし、基本情報を大きく記載することでパネルを見た瞬間に施設の概要をつかめる「この料金なら行ってみよう」「この時間まで営業しているなら行けそう」「家から学校までの通りで寄れるかも」といった気持ちになってもらえるかも知れない。作成する側としては基本情報をわかりやすく伝えたいと思ったので、表示する大きさはあまり変えないことにした。2つ目はご指摘のあった「サービス満点、遊びゴコロ満載の趣向が盛りだくさん」という学生の感想部分の表記を、「スタッフの方の丁寧な対応やお客さんを楽しませるアイディアに、お風呂を通してお客さんを幸せにしたいという思いが伝わってきました。」と変えた。自分が施設を利用して感じたことを具体的に書き直したことで、何を言いたいのかわかりやすくなった。3つ目は写真の変更である。修正前はホームページに載っていた写真をそのまま引用したが、修正後は実際に自分が撮影した写真も取り入れた。プロのカメラマンによる写真の方が圧倒的に見栄えが良いが、敢えて自分が撮った写真を取り入れることで、より学生らしいパネルになったと思う。4つ目は「温泉カフェわかば」の紹介文の変更である。修正後はメニューにある「豆乳ソフト」を取り上げ紹介文に盛り込むことで、施設の写真だけでは伝わらない生の情報を発信できたと考えている。

長岡大学 平成25～27年度「地(知)の拠点整備事業」平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCC)」 地(知)の拠点

小須戸温泉健康センター

「花」と緑の小須戸
思い出話に「花」が咲く カフェわがば
温泉で心も体も温まり 笑顔に「花」が咲く
お湯も人も「花」がある ～花の湯館～

花の湯館

営業時間 10:00 ～ 21:00
休館日 毎月第2水曜日
【祝日の場合は前日】、12月31日

【泉質】泉質名なし
(メタケイ酸の項による温泉、メタケイ酸含有の中性泉)

入館料
大人(中学生以上) タオル付 500円
タオル無 450円
小人(小学生まで) タオル付 200円
タオル無 150円

学生からのひとこと(丸山 貴樹)
実家からも近く、馴染みの深い温泉です。地元では「お湯がいい」ともっぱらの評判で、常連客も多いと思います。日曜日恒例の子供に大人気のアル風呂を始め、さまざまなイベントが毎月のように開催されています。スタッフの方の丁寧な対応やお客さんを喜ばせるアイデアに、お風呂を通してお客さんを幸せにしたいという思いが伝わってきました。ホームページも充実していて、見ているだけでも楽しいです。

～不思議な空間「可度」：温泉カフェ「わがば」～
花の湯館の2階にある温泉カフェ「わがば」は、豪快さで何となく昭和の懐かしい雰囲気です。メニューも地元の産物やこだわりの食材を使ったヘルシーなものばかり！

【交通アクセス】
〒956-0114 新潟県新潟市秋葉区天ヶ沢 498-1
TEL:0250-38-5800
・京信越本線「矢代田駅」より徒歩で15分、またはバスで5分 ※バスは3時間に1本程度
※矢代田駅より区バス「うららこすど」行きへ乗車
・北陸自動車道「三条燕川」より車で40分

長岡大学 平成25～27年度「地(知)の拠点整備事業」平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCC)」 地(知)の拠点

小須戸温泉健康センター

「花」と緑の小須戸
思い出話に「花」が咲く カフェわがば
温泉で心も体も温まり 笑顔に「花」が咲く
お湯も人も「花」がある ～花の湯館～

花の湯館

営業時間 10:00 ～ 21:00
休館日 毎月第2水曜日
【祝日の場合は前日】、12月31日

【泉質】泉質名なし
(メタケイ酸の項による温泉、メタケイ酸含有の中性泉)

入館料
大人(中学生以上) タオル付 500円
タオル無 450円
小人(小学生まで) タオル付 200円
タオル無 150円

学生からのひとこと(丸山 貴樹)
実家からも近く、馴染みの深い温泉です。地元では「お湯がいい」ともっぱらの評判で、常連客も多いと思います。日曜日恒例の子供に大人気のアル風呂を始め、さまざまなイベントが毎月のように開催されています。スタッフの方の丁寧な対応やお客さんを喜ばせるアイデアに、お風呂を通してお客さんを幸せにしたいという思いが伝わってきました。ホームページも充実していて、見ているだけでも楽しいです。

小須戸の食材を使った料理が味わえる「温泉カフェわがば」
小須戸の食材を使った料理を小須戸でいただける町屋風のカフェ。地産地消で地域活性化に貢献している。小須戸の人なら誰もが知っている「徳永豆腐屋」さんの豆乳ソフトは甘すぎず、程よいあっさりとした甘味でお風呂上がりのクールダウンに最適！実家は是非味わって欲しい一品です。

【交通アクセス】
〒956-0114 新潟県新潟市秋葉区天ヶ沢 498-1
TEL:0250-38-5800
・京信越本線「矢代田駅」より徒歩で25分、またはバスで5分 ※バスは3時間に1本程度
※矢代田駅より区バス「うららこすど」行きへ乗車
・北陸自動車道「三条燕川」より車で40分

写真 14 (左) が修正前で、写真 15 (右) が修正後の『花の湯館』紹介パネルである。

修正前のパネルと修正後のパネルを比べてみると、修正後の方がパネル一枚に施設の情報詰まっているのがわかる。こうして2つのパネルを並べると、ホームページから引用した写真を使いつつも実際に自分で撮影した写真も掲載した修正後の方が見栄えが良く、施設の雰囲気も伝わりやすくなっている気がする。基本情報の文字は大きく残しつつテキストボックスのサイズを小さくし、スペースに余裕が出来た分、施設紹介の文を多くした。

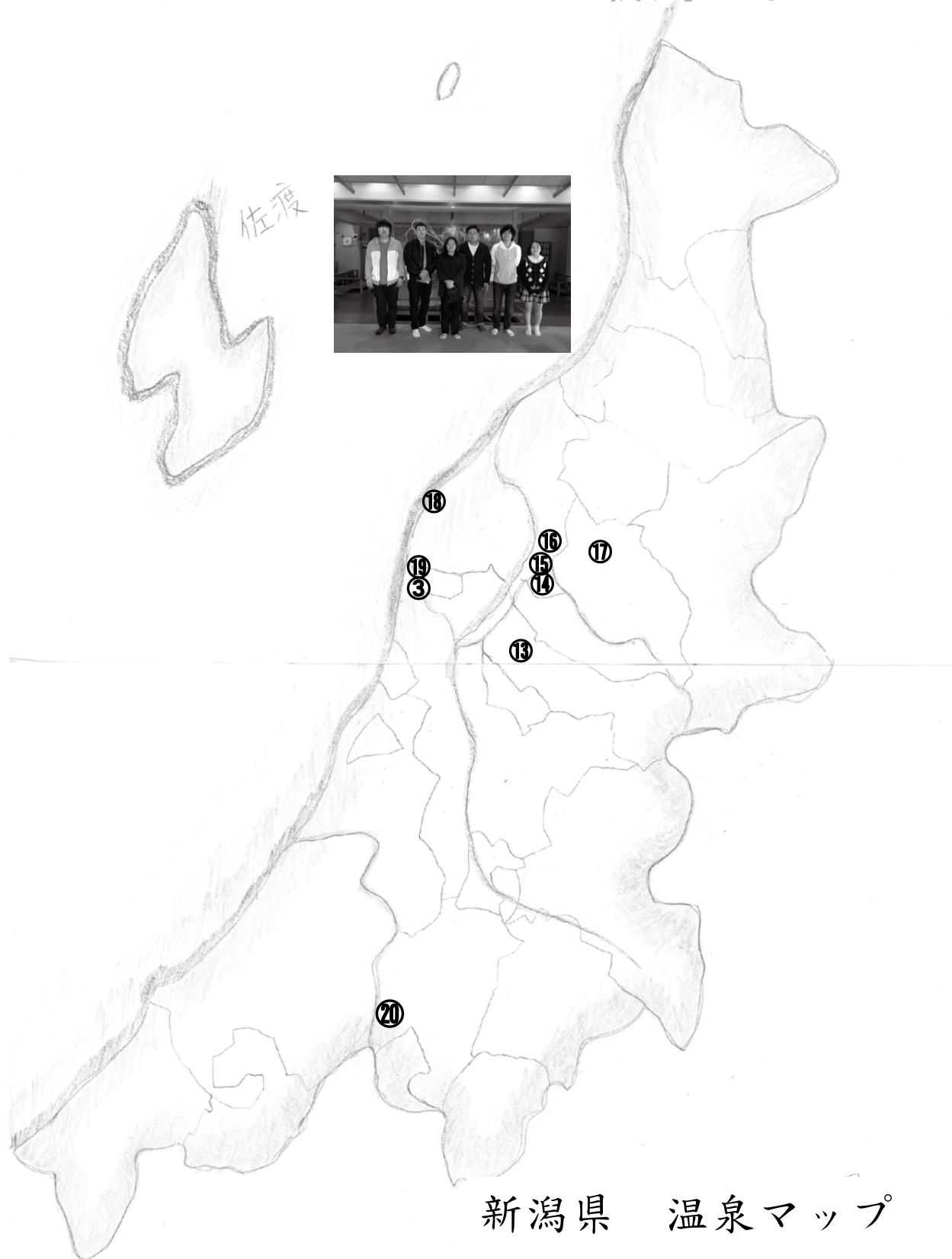
3-4-5 施設紹介パネルを作成して得たもの

今思い返すと、施設紹介パネルの作成はもう少し効率よく上手くできたのかも知れない。しかし、この一連のパネル作成作業を通じて良い物を作るには時間をかけ追求すること、手間ひまを惜しんではいけないということを頭と体が納得するまで学べた。また悠久祭でのパネル展示が好評になると思っておらず、温泉を取り上げることで温泉施設の方を含め沢山の方に喜んでいただけたのは驚きだった。学内外で多くの方々に支えられてきたのを本当に感謝している。この活動を通してゼミ担当の指導の元で、領収書の取り扱い方や送付状の作り方、メールの書き方などこれから社会に出て大切になってくるマナーや社会性が身についた。この活動期間で人間としてどれくらい成長できたのか、まだよくわからない。それでも、今後の社会人生活を送るうえで大切なことを十分に得ることができたと思う。

次ページからは昨年度の活動の課題としてあった学生による温泉紹介マップである。

4 ゼミ学生による温泉マップの作成と調査した温泉施設一覧

山川ゼミナール ドキドキ！新潟温泉マップ



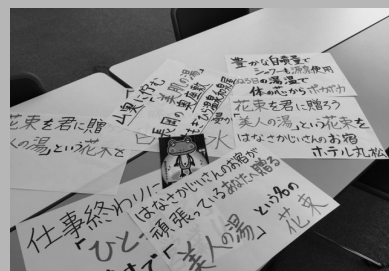


施設名及び住所、電話番号	交通のアクセス
①：よもぎひら温泉 和泉屋 〒940-1122 TEL 0258-23-2231 長岡市蓬平町甲 1508-2	<ul style="list-style-type: none"> ・関越道長岡 IC または小千谷 IC より車で約 40 分 ・JR 長岡駅より車で約 25 分 ・北陸自動車道中之島 IC から車で 40 分。小千谷方面へ進み横枕交差点左折後 1 本道を進む。
②：花の宿 よもやま館 〒940-1122 TEL 0258-23-2121 長岡市蓬平町甲 130-1	<ul style="list-style-type: none"> ・上越新幹線長岡駅より定期バス～高龍神社行き ・関越道南越路スマート IC より県道蓬平温泉方面へ車で約 20 分
③：蓬莱館 福引屋 〒940-1122 TEL 0258-23-2221 長岡市蓬平温泉	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡駅～蓬平温泉 バス 約 40 分、タクシー約 20 分 ・長岡南越路 IC より、車で約 15 分 ・小千谷 IC、中之島・見附 IC、長岡 IC より、車で約 30 分
④：越後とちお温泉 おいらこの湯 〒940-0147 TEL 0258-89-8590 長岡市赤谷 179 番地 2	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡駅大手口 11 番線から栃尾車庫行きバス（急行）乗車、終点「栃尾車庫」で乗り換え、栃堀又は栗山沢行きバス乗車「いずみ苑前」下車徒歩 5 分 ・「道の駅 R290 とちお」から魚沼市方面へ約 1km
⑤：桂温泉 〒940-0802 TEL 0258-44-8480 長岡市桂町 1527	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡駅より車で約 20 分 ・関越道長岡 IC より車で約 20 分
⑥：麻生の湯 〒940-0806 TEL 0258-31-9300 長岡市麻生田町南谷 2063 番地	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡駅より車で約 15 分 ・北陸道中之島見附 IC より車で約 15 分
⑦：えちご川口温泉 〒949-7503 TEL 0258-89-3000 長岡市川口中山 2515-4	<ul style="list-style-type: none"> ・関越道越後川口 IC より車で約 10 分 ・JR 越後川口駅より車で約 5 分
⑧：旬食・ゆ処・宿 喜芳 〒940-2314 TEL 0258-42-4126 長岡市上岩井 6964 番地	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 長岡駅より越後交通バス「脇野町行き」関原経由 35 分、役場前バス停下車 徒歩 5 分 ・長岡 IC 下車、国道 352 号線を寺泊・出雲崎方面へ車で約 20 分
⑨：アクアレー長岡 〒940-2147 長岡市新陽 2 丁目 5-1 TEL 0258-47-5656	<ul style="list-style-type: none"> ・関越道長岡 IC より車で約 10 分 ・JR 長岡駅より車で約 35 分
⑩：寺宝温泉 〒940-2057 TEL 0258-28-4126 長岡市寺宝町 82 番地	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡 IC から車で約 5 分 ・長岡駅から車で約 15 分 ・長岡駅大手口からバスで 2 番線から河根川経由与板行き乗車約 20 分 寺宝温泉前停留所で降車（当温泉正面）

施設名、住所	アクセス
⑪：寺泊岬温泉 太古の湯 〒940-2501 TEL 0258-75-5533 長岡市寺泊野積 107-23	・北陸道中之島見附 IC より車で約 40 分 ・JR 分水駅より車で約 5 分
⑫：寺泊岬温泉 ホテル飛鳥 〒940-2501 TEL 0258-41-6111 長岡市寺泊野積 107	・北陸道中之島見附 IC より車で約 40 分 ・JR 分水駅より車で約 5 分
⑬：八木ヶ鼻温泉 いい湯らてい 〒955-0128 TEL 0256-41-3011 三条市南五百川 16 番地 1	・北陸自動車道三条燕 IC より車で国道 289 号線を直進約 40 分 ・上越新幹線燕三条駅より車で国道 289 号線を直進約 40 分 ・JR 東三条駅より車で国道 289 号線を直進約 30 分 ・JR 東三条駅より路線バスで約 40 分
⑭：ごまどう湯っ多里館 〒959-1502 TEL 0256-57-6301 南蒲原郡田上町大字田上丙 3673-1	・JR 田上（新潟県）駅出口から徒歩約 7 分 ・JR 田上駅より車で約 2 分
⑮：花の湯館 〒956-0114 TEL 0250-38-5800 新潟市秋葉区天ヶ沢新田 498-1	・JR 信越本線「矢代田駅」より徒歩で約 25 分、またはバスで約 5 分 ※バスは 3 時間に 1 本程度 ※矢代田駅より区バス「うららこすど」行きへ乗車 ・北陸自動車道「三条燕 IC」より車で約 40 分
⑯：秋葉温泉 花水 〒956-0833 TEL 0250-24-1212 新潟市秋葉区草水町 1-4-5	・JR 信越本線 新津駅から車で約 7 分 ・JR 磐越西線 東新津駅から徒歩 0 分、目の前 ・磐越自動車道 新津 IC より車で約 10 分
⑰：咲花温泉 ホテル丸松 〒959-1615 TEL 0250-47-2331 五泉市佐取 2986	・JR 咲花駅より徒歩約 2 分
⑱：カーブドッチヴィネスパ 〒953-0011 TEL 0256-77-2226 新潟市西蒲区角田浜 1661	・北陸道巻潟東 IC より車で約 15 分 ・JR 巻駅より車で約 10 分
⑲：さくらの湯 〒959-0318 TEL 0256-94-1126 西蒲原郡弥彦村弥彦大字麓 1970	・北陸自動車道 三条燕 IC より弥彦方面へ車で約 35 分 ・JR 弥彦線弥彦駅下車、タクシー車で約 5 分
⑳：ナステビュウ 湯の山 〒942-1431 TEL 025-596-2619 十日町市松之山湯山 1252-1	・塩沢・石打 IC から車で約 50 分 ・六日町 IC から車で約 50 分 ・JR 十日町駅から車で約 30 分

以上はゼミで調査を行い温泉マップに掲載した温浴施設の一覧である。

写真 16 (右) 温泉にまつわるキーワード探しの作業
でゼミ学生たちが書いたものの一部



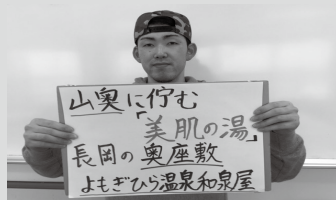
①：よもぎひら温泉 和泉屋



【営業時間】
11:00～20:00
【定休日】
混雑したときのみ、お断りするケースあり。
※電話で要確認

明治2年創業から長年親しまれている老舗温泉宿。

長岡市蓬平町の山奥に佇む、「長岡の奥座敷」よもぎひら温泉の和泉屋。トロトロとした独特のぬめりのある泉質が特徴的な温泉で肌がツルツルになると評判。長岡の大自然のなか、山あいの四季を感じながら日常を忘れゆったりとした時間を過ごせる。日常から抜け出し、長岡の奥座敷で大切な人と至福の時を過ごしてみたいだろうか。



【入浴料】
1000 円
【泉質】
単純硫黄冷鉱泉

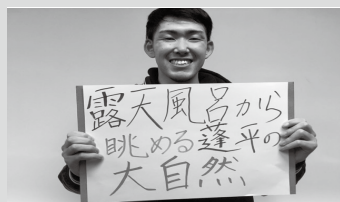
②：花の宿 よもやま館



【営業時間】
12:00～15:00、
18:00～21:00
【定休日】
※電話で要確認

古風のある佇まいに、安心や落ち着きを感じる温泉宿

浴槽からは山が見え目の前は川が流れ、蓬平の自然の豊かさを間近で味わえ、贅沢な入浴時間を過ごせる。宿泊施設であるが立ち寄り湯も可能で、宿泊する時間が取れない方でも、素敵な温泉に浸かることが出来るのはありがたい。また「花舞台」という舞台があり宿泊を行うと、よもやま館オリジナルの舞が楽しめる。



【入浴料】
1000 円
【泉質】
ナトリウム塩化物炭酸水素塩泉

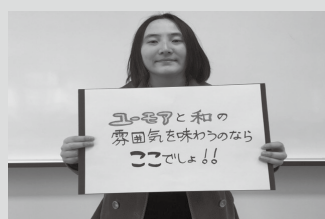
③：蓬萊館 福引屋



【営業時間】
※電話で要確認
【定休日】
毎月2回
(風呂のメンテナンスのため) ※電話で要確認

験を担ぎ幸福を授かる湯

館内は外観からは想像しにくい開放感あふれている。温泉はぬるっとした肌触りで心地良いがその反面滑りやすい。男女の湯名の由来が書かれた看板があるので是非現地でご確認を！地元愛や人のぬくもりを感じられる手作り品を取り扱うお土産コーナーが充実しており、従業員がお出迎え・お見送りの言葉をかけてくれるので気持ちよく利用できるのが強みだ。



【入浴料】
800 円
【泉質】
単純硫黄アルカリ性・低張性温泉

④：越後とちお温泉 おいらこの湯



【営業時間】
金・土曜日以外
11:00～20:00
(入浴: 12:00～19:00)
金・土曜日
11:00～21:00
(入浴: 12:00～20:00)
【休館日】
毎週木曜日
(老人の日(9月15日)に当たるときは、その翌日)
年末年始
(12月28日～1月4日)

自宅のようにゆったりと

栃尾の豊かな自然の中に建つ温泉施設。2012年に出来たばかりの木造建築の清潔感がある施設で、食事もある。「おいらご御膳」という栃尾の食材を使ったヘルシーな御膳は年代問わず優しい味わいである。

(写真 komachi web から引用)



【入浴料】
一般 400 円、
高齢者(65歳以上)、
障害者、介助者 250 円
【泉質】
ナトリウム-塩化物強塩温泉

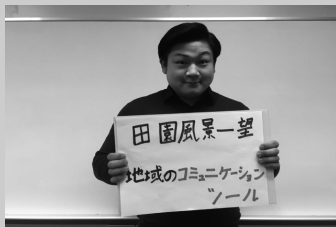
⑤：桂温泉



【営業時間】
10:00～22:00
【定休日】
月曜日

地域の人たちの、憩いの場

田園地帯にある温泉である。入浴しに行ったときに近隣に住んでいる方とお話する機会があった。地域の人と会って間もないのに、会話が弾むのは温泉ならではの効果だと思った。地域の人に愛されている温泉。内湯は熱めのお湯とぬる目のお湯が楽しめ、夏場は露天風呂も楽しめる。



【入浴料】
500 円
【泉質】
アルカリ性単純温泉

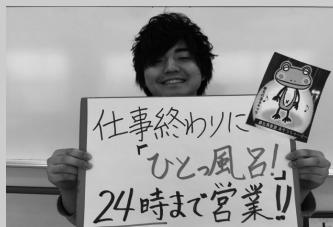
⑥：麻生の湯



【営業時間】
9:30～24:00
【定休日】
なし

長岡の温泉の入門編、ここから始まる温泉の旅。

無料シャトルバス、広い駐車場によるアクセスのしやすさ、食事処ではレストランのような幅広いメニューの料理が注文でき家族で行きやすい温泉地だ。他の温泉地と比べても豊富なボディケア、仮眠スペースやサウナと、温泉に行ったらあってほしいと思うものが揃っている。24 時まで営業しておりとても通いやすい温泉施設だ。



【入浴料】
800 円
【泉質】
ナトリウム・カルシウム 塩化物泉

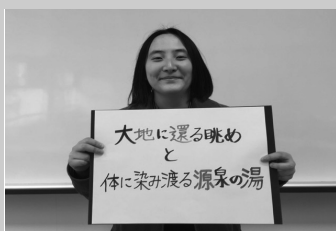
⑦：えちご川口温泉



【営業時間】
10:00～21:00
【定休日】
第 1, 3, 5 火曜日

日帰りではもったいないと思われる温泉施設

楽な姿勢で利用できる寝湯や腰掛け式流水浴、源泉の濃さを体感できる源泉浴などがある。脱衣所には床暖房、温泉は身体の保温効果が高く、冬でも冷えることなく利用が可能。ツボ押しやジム、夏季限定のプールなど付属施設も充実！2 階の広場や大展望露天風呂からの景色は一見の価値あり。ホテルサンローラが隣接しているため宿泊で利用しやすく、様々な時間の景色を楽しむのもおすすめだ。



【入浴料】
700 円
【泉質】
ナトリウム－塩化物 強塩温泉

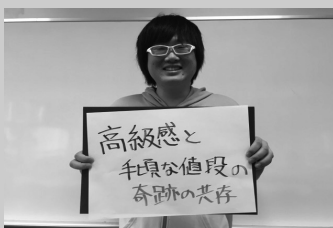
⑧：旬食・ゆ処・宿 喜芳



【営業時間】
10:00～22:00
【定休日】
年中無休

季節を楽しめる高級温泉！

玄関先にいる大きなカエルの像が印象的で平日は 870 円でタオルだけでなく館内着もついてくる。露天風呂から眺める田園風景は、四季折々な景色が楽しめる。ヒノキ、陶器、岩の三種類の露天風呂があり浴槽の種類が豊富なところもポイントだ。温泉だけでなく食事処もきれいで、ごろ寝処やリラックスルームなどもあり楽しむポイントが沢山ある温泉施設である。



【入浴料】
平日 870 円
土日祝 1080 円
【泉質】
単純温泉
(中性低張性低温泉)

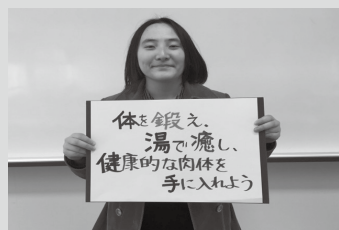
⑨：アクアーレ長岡



【営業時間】
10:00～21:00
【定休日】
第2,4月曜日
(祝日の場合は翌日)

疲れを癒しつつ美ボディを手に入れよう

この施設では温水プールとフィットネス設備にも力を入れているので疲れた体を癒すのに温泉を利用するプランにして最大限に楽しみたいところだ。しかし、学校や仕事帰りでは存分に堪能出来ないのて休日の利用をお勧めする。運動で血圧上がりやすい状態にも優しい低温浴槽もあるため、そこらのジムの設備に負けずとも劣らないトレーニング施設で体を鍛えて健康になろう。



【入浴料】
760 円
【泉質】
青葉温泉
「メタケイ酸」を含む鉱泉

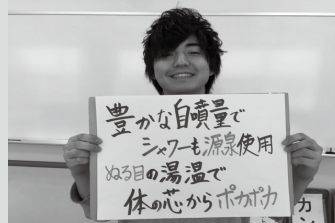
⑩：寺宝温泉



【営業時間】
7:00～22:00
10～3月まで21:00閉館
【定休日】
なし

浴槽溢れる掛け流し温泉。

県内トップレベルの水質を誇り、豊富な湧出量によりシャワーも温泉水を活用することが可能となっている。勿論すべての浴槽は源泉掛け流しで見ていて気持ちが良いほどだ。二種類の内湯と三種類の露天風呂という豊富な種類の浴槽で、濃質な温泉を体験することができる。



【入浴料】
700 円
【泉質】
ナトリウム-塩化物温泉

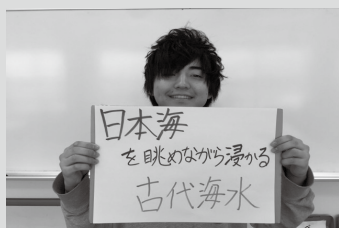
⑪：寺泊岬温泉 太古の湯



【営業時間】
10:00～21:00
【定休日】
なし

海の帰りに最適、旅の終わりに安らぎを。

広まるガラス張りの景色に、ゆったりとくつろげる広さの浴槽。夕方には光輝く海と沈んでいく太陽の壮大な姿を見ることが出来る。市場や海で遊んだ後に訪れたい温泉だ。休憩所では気軽に仮眠をとれるスペース、リラクゼーションルームと一息つくことが可能なため、海帰りや市場へ行った後に訪ねることをお勧めする。



【入浴料】
700 円
【泉質】
ナトリウム・カルシウム-塩化物強塩泉
(中性高張性高温泉)

⑫：寺泊岬温泉 ホテル飛鳥



【営業時間】
11:00～18:00
17:00受付終了
【定休日】
電話で要確認

湯船から見渡す日本海！豪華な料理でおもてなし！

浴槽から景色が良く見える造りになっているので、温泉に入りながら日本海と弥彦山を見ることができる。大浴場、陶器風呂、寝湯、薬枯風呂、水風呂、露天風呂と浴槽の種類が豊富で、つい長時間入浴してしまうほどだ。温泉以外にも豪華な料理やカラオケを楽しむことができる施設である。



【入浴料】
700 円
【泉質】
ナトリウム・カルシウム-塩化物強温泉
(中性高張性高温泉)

⑬：八木ヶ鼻温泉 いい湯らてい



【営業時間】
10:00～22:00
【定休日】
毎月第三水曜日(祝日
の場合は翌日休館)

露天風呂で青空と共に八木ヶ鼻を望む

三条市の山奥、下田にある温泉施設。周りにはキャンプ場もあり週末は家族連れの利用客などで賑わっている。下田の自然と迫力のある八木ヶ鼻を望める浴槽が魅力的。露天風呂には「たなごころの湯」という日替わり湯もあり毎日来ても楽しめるのがポイントだ。



【入浴料】
850 円
【泉質】
ナトリウム・カルシウム
-硫酸塩泉(弱アルカリ
性低張性高温泉)

⑭：ごまどう湯っ多里館



【営業時間】
10:00～22:00
【定休日】
毎月第2火曜日

数少ない飲める温泉！一度お試しあれ!!

駐車場からエレベーターで本館に向かうと県内でも希少な飲泉スペースがある。浴室からは越後平野が一望でき、晴れた日の浴室からの眺めは絶景だ。また「ごまどうの湯」には珍しいサウナがあり、ソルティサウナといって塩を体に塗ってから入るサウナで美肌効果やダイエット効果が期待でき女性に好評だ。



【入浴料】
700 円
【泉質】
ナトリウム-塩化物泉
(アルカリ性低張性温泉)

⑮：花の湯館



【営業時間】
10:00～21:00
【定休日】
第2水曜日

毎週日曜日にアヒル降臨！花の湯館

毎週日曜日は「アヒル風呂」というイベントが開かれ浴槽に大量のアヒルが泳ぐ。その他にも「小判風呂」などお子様連れのお客さんが楽しめるイベントが沢山行われている。施設に併設されている「温泉カフェわかば」では地元の食材を使った豆乳ソフトやラーメンを頂くことができる。荷物を持たずに行っても貸しタオルの料金を含めワンコインで入浴できるのは魅力的である。



【入浴料】
450 円
(貸しタオル+50 円)
【泉質】
泉質名なし(メタケ
イ酸含有の中性泉)

⑯：秋葉温泉 花水



【営業時間】
10:00～22:00
【定休日】
年中無休

非日常的空間で味わう極上の癒し

秋葉区の JR 東新津駅の隣に建つ温泉施設。ヨーロッパや国内のスパを丹念に視察して造られており、日常生活では味わえない優雅な空間を楽しむ。洋風のオシャレな建物で、広々とした開放感のある大浴場や、隔離されていて安心して寛げるメディテーションバスが魅力的である。レストランやカフェ、リラクゼーションサロンも館内に併設されていて、日ごろの疲れをゆっくり癒し、時間を忘れて1日中寛げる。



【入浴料】
950 円
【泉質】
弱アルカリ性・ナトリ
ウム・塩化物温泉

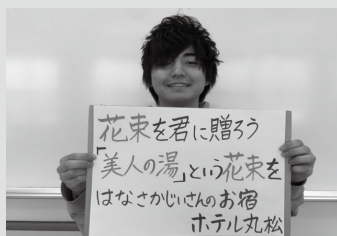
⑰：咲花温泉 ホテル丸松



【営業時間】
※電話で要確認
【定休日】
※電話で要確認

香り痺れる、硫黄温泉。本格派温泉ここにあり

その昔、「湯の花」が咲いていたことから「咲花」の名前が付けられた、「咲花温泉」。毎分 2,000 リットルの湯量豊富な源泉にゆったり浸かり、体の芯までポカポカとあたたまる事が出来る。つん、と鼻につく温泉ならではの芳香に入る前から本格的な温泉の片鱗を味わうことが可能だ。



【入浴料】
700 円
【泉質】
単純硫黄物泉

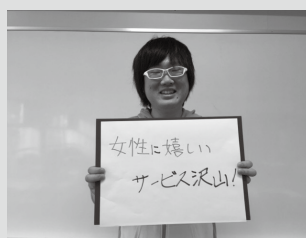
⑱：カーブドッチヴィネスパ



【営業時間】
平日 10:00～22:00
土日祝 7:00～22:00
【定休日】
年中無休

キレイな景色に美人の湯、究極の露天風呂ここにあり

更衣室からもきれいな景色が見える、露天風呂が大きく景色は最高の一言。女性専用のマッサージや休憩室を始め、スタッフも基本的に女性ばかりと女性が気軽に行けるようになっている。男性のみでも十分満足できたので友達同士やカップルで利用するのもおススメだ。



【入浴料】
1000 円
【泉質】
ナトリウム-硫酸塩・塩化物・炭酸水素塩泉(アルカリ性低張性高温泉)

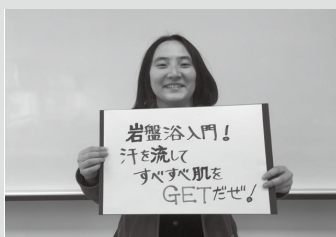
⑲：弥彦桜井郷温泉 さくらの湯



【営業時間】
10:00～22:00
【定休日】
(年 5 回程度メンテナンス休館有り)

多種多様な湯と岩盤浴は飽きることが無い！

温泉は日替わりのハーブ湯が楽しめ、露天風呂には立ち湯や壺湯などがあり、目玉ともいえる岩盤浴は説明や水分補給の促しをしてくれるので初体験でも安心して体験してみよう。平日の 17 時以降は仕事帰りの 20 代から 30 代の人が多く利用しており、中高年層だけでなく若者や特に女性へのサービスの質の良さがあると感じたのでご自身の目で確かめてはいかがだろうか。



【入浴料】
1000 円
【泉質】
ナトリウム-カルシウム-塩化物泉(低張性アルカリ性高温泉)

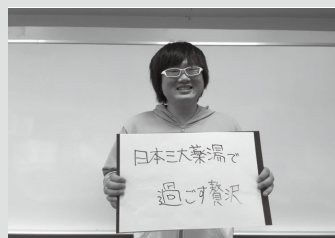
⑳：ナステビュー 湯の山



【営業時間】
10:00～22:00
(12～3 月は 21 時まで)
【定休日】
毎月第 2 金曜日(5 月のみ)
第 3 金曜日)

ここに通えば病気知らず！最高の薬湯！

くじ引きを実施するなど、様々なイベントを積極的に行っているこの施設は日本三大薬湯にも数えられる名湯。大浴場には音楽が流れていてよりリラックスできる。平日でもお客さんは多く、温泉の良さはもちろんだが、サービスの良さも物語っている。90 度以上の源泉が利用されているので火傷に注意！



【入浴料】
650 円
【泉質】
ナトリウム・カルシウム-塩化物泉(弱アルカリ性・高張性・高温泉)

5 新潟大学・村山敏夫先生の温泉と地域資源を活用した健康づくり講座

5-1 健康づくりを考える入浴法と実践

日 時：平成 28 年 11 月 15 日（火）9 時 00 分～12 時 00 分

場 所：花の湯館（新潟市秋葉区天ヶ沢 498-1）

参加者：4 年 丸山 貴樹

教 員：山川 智子

11 月 15 日、新潟市秋葉区にある『花の湯館』で行われた新潟大学教育学部の村山敏夫先生の「温泉と地域資源を活用した健康づくり講座」を受講してきた。この講座は 2 回に渡りこの日は第 1 回目で、「健康づくりを考える入浴法と実践」というテーマで座学と実習があった。開館前の午前 9 時に始まったこの講座には、10 名ほど受講者が集まった。講座の冒頭村山先生が挨拶された後すぐに水着に着替えて浴室へと移動した。実際に浴槽に浸かりながら「健康づくりを考える入浴法」を教わった。村山先生には今年度ゼミ活動の地域活性化アドバイザーでもあり、特別授業等でも随分とお世話になった。

今回教わった「健康づくりを考える入浴方法」の内容は、次ページの通りである。



(上)写真 18 村山先生の講座風景



(下)写真 17 今回の講座の告知ポスター



新潟大学教育学部 村山准教授の
**温泉と地域資源を
活用した健康づくり講座**

**第1回
健康づくりを考える入浴法と実践**
11月15日(火)午前9時～午前11時
毎日の入浴も健康づくりに役立つ入り方があります。
新潟大学教育学部の村山准教授と一緒に楽しく勉強しながら健康づくりしましょう！

- 場所…新潟市小須戸温泉健康センター花の湯館
- 参加費…1,000円
(入館料と貸しタオル代、飲み物代含む)
※講座では男女が同じ湯船に入浴しますので、
水着着用となります。
- 定員…先着20人(要申込)
- 申込…電話かFAXで花の湯館
(0250-38-5800)へ
10月16日受付開始





**第2回
菩提寺山眺望トレッキングと自然体験**
11月22日(火)午前9時～午後3時
里山ビジターセンターを出発して菩提寺山を眺める
トレッキングでさわやかに汗を流しましょう。ゴール後
村山准教授がストレッチや入浴方法もお伝えします。

- 場所…里山ビジターセンター
- 参加費…1,000円
(入館料と貸しタオル代、保険代含む)
※花の湯館から里山ビジターセンターに戻る際、
別途バス代170円がかかります。
- 定員…先着20人(要申込)
- 申込…電話かFAXで里山ビジターセンター
(0250-22-6911)へ
10月16日から受付開始



(左)写真 19 『花の湯館』での記念撮影の1枚

健康づくりを考える入浴方法



①浴室に入ったらいきなり浴槽に浸かるのではなく、入浴前に一旦イスに座り一呼吸する。

脱衣所と浴室では室温や湿度などが違うので、まずはイスに座り身体を浴室の環境に馴染ませることが大切である。

②その後、呼吸をしたら 40～42℃くらいの温度のシャワーを手足の指先などにかける。

手足は毛細血管が集合していて温度変化などに敏感であるため、これから入浴する浴槽の湯温と同じくらいの温度のシャワーをかけることで、身体がこれから入浴すると認識する。この行為を行うことで身体が入浴前の準備体操を行った状態になり、ヒートショックなどへの危険性が軽減し身体への負担が少ない入浴が出来る。

③次は浴槽への入り方だ。浴槽にはゆっくりと浸かっていく。

浴槽へは一気に肩まで浸かるのではなく、ゆっくりと浸かっていくことが重要である。

④入浴は 3 分を目安に浴槽から上がる。

この時もいきなり立ち上がるのではなく、ゆっくりと立ち上がり一旦浴槽のへりなどに腰掛け、一呼吸をしてから上がる。そうすることで、入浴中に暖まって緩んだ血管が急に立ち上がることで縮まり、立ちくらみなどが起こることを防げる。

⑤浴槽から上がった後、同じように②③④の入浴法を 3 回繰り返す。(シャワーで手先足先にお湯をかけてからゆっくりと浴槽に 3 分ほど浸かる。)

こういった同じ入浴の方法を繰り返すことを交互浴という。この交互浴を 3 回繰り返すと身体の芯からジワジワと汗ばんでくる、お風呂から上がった頃には身体がポカポカと温まった状態になるので、3 回を目安に交互浴を行うと良い。

⑥入浴を終え、お風呂から上がる際はシャワーで冷たい水を出して、手足を絞めてから上がる。

手足を冷水で絞めることで湯冷めすることなく、温まった状態を維持することができる。



お風呂上がりには身体を撫で、さすりながら筋肉などを伸ばすイメージで軽くマッサージをすると良いと村山先生は言っていた。マッサージだからと言って身体を揉み解すのではなく、優しくさするのがポイントのようだ。この【事故のない入浴方法】の一連の流れを村山先生から実践形式で教わった後、着替えて休憩室に移りスクリーンを使用し写真やスライドを使いながら、入浴法のおさらいや「健康」についての話を聞いた。

「健康」についての話は、温泉と健康がなぜ結びつくのかという内容だった。「温泉は人と人をつなぐ力を持っている」と村山先生は言っていた。以前村山先生が阿賀町で実施したトレッキングと入浴を合わせた体験講座での写真を使いながら説明が行われた。

トレッキング前の集合写真では表情が硬かった参加者が、ゴールを迎えてから撮った集合写真では笑顔になっていた。このトレッキングは初対面の人同士でも一緒にトレッキングをすることにより仲良くなる。つまりトレッキングや温泉が仲間作りの場になるのだ。仲良くなった仲間と温泉に入り、トレッキングでかいた汗を流し裸の付き合いをすることでお互いの距離がさらに縮まる。これのどこが健康に結びつくのか、トレッキングで身体を動かすことだと思う人もいるかもしれないが、一番大切なのはそこではないようだ。実は健康になるには、食事や運動より「人と繋がること」が大切らしい。人と繋がりコミュニケーションを取り笑いが起きることで、笑うという行為が脳を活性化させ身体の免疫力を上げてくれるようだ。

また、トレッキングは自然の中を散策する自然浴でもある。皮膚に風を当てて歩くことで免疫が上がると言われている、海外では自然浴が病気の治療法の一つとなっているようだ。その他にも歩くことで地面の起伏が足の平へ刺激を与える、その刺激でホルモンが分泌され、今度は脳に刺激が行き脳の活性化が行われる。ゆっくりリズムよく歩くことが脳にとって1番良い歩き方で、歩くコースは平らではなく上り下りのある起伏があるコースだと身体へ少しの負荷がかかり筋肉の運動にも良いと言われている。そして運動することで、泣いた時と同じホルモンが分泌されスッキリする。

つまりトレッキングも健康になるための要素が詰まっていて、更にリフレッシュ効果があるともいえる。またトレッキングを行う前に地図を見てコースを考え、実際にコースを歩き、ゴールした後に反省を行う。この一連の流れも頭を使うことばかりなのでトレッキングには脳を活性化する沢山の要素が詰まっている。脳の栄養になるものは、知りたいという興味や欲求からなる知的好奇心であり、そういった興味がある場所へ足を運び実際に体験することが大切と村山先生は言っていた。

その他にもお風呂についての話として、お風呂の浮力、抵抗、水温、水圧の話もして頂いた。その中でも水温についての話で、入浴には不体感温度という丁度いい水温で入浴する不体感温度浴、ぬるめのお湯で入浴する低温浴、熱いお湯で入浴する高温浴などがあり、水温によって自律神経への影響が違ってくるようである。37～40℃の水温での低温浴を行うと副交感神経が刺激されリラックスした状態になり、42℃前後の水温で高温浴を行うと交感神経が刺激され緊張した状態になるようだ。ゆっくり寛ぎたいと思う時はぬるめのお湯で入浴をすると良く、スポーツの大会や気合を入れて何かを行う前は熱いお湯で入浴すると良いようである。また村山先生は「お風呂は生活のリズム」と言っていた。この話は普段の生活でも利用できそうだと思うのでこれからは水温を意識して入浴したいと思った。

5-2 菩提寺山眺望トレッキングと自然体験

日 時：平成 28 年 11 月 22 日（火）9 時 00 分～16 時 00 分

場 所：里山ビジターセンター、花の湯館

参加者：4 年 丸山 貴樹

11 月 22 日、「温泉と地域資源を活用した健康づくり講座」の第 2 回で「菩提寺山眺望トレッキングと自然体験」というテーマで屋外での活動が中心だった。新潟市秋葉区の里山ビジターセンターを出発し、裏山の菩提寺山をトレッキングしながら自然と触れ合い最後にゴールの『花の湯館』で村山先生から入浴方法やストレッチなどを教わり、入浴後解散という運びである。「里山ビジターセンター」をスタートし、「白玉の滝」を経由し山頂を目指す。下山コースは「大沢森林公園」を経由し、ゴールの『花の湯館』へと向かう。



写真 20 里山ビジターセンター発トレッキングマップ：今回のコース

9 時前にビジターセンターに着くと既に何人かの参加者が集まっていた。参加者はほぼ全員が登山靴を履いていて万全な装備だった。スニーカーを履いてきたので心配になった。9 時になり開会式が行われ、これからの工程の説明や村山先生のご挨拶があった。里山ガイドの方とビジターセンター内にある里山の模型を確認しながらこの日のトレッキングコースの説明が行われた。その後集合写真を撮影し、9 時半頃トレッキングへ出発した

ビジターセンターを出発して、この地域で石油が取れた時代に石油を採取する際に使っていた機械などを見学しながら 5 分くらい歩き堀出神社に到着した。堀出神社の階段には紅葉し終わった落ち葉が散りばめられていて綺麗な絨毯のようになっていた。階段を上り本堂で参拝をしてから里山ガイドの方の案内のもと本堂の裏にある道を通って菩提寺山の登山コースへ入って行った。アップダウンのある山道を 20 分程歩くと白玉の滝の雌滝に着いた。ここで一旦トイレ休憩があり各々が滝を眺めるなど休憩を取った後、トレッキングを再開した。トレッキング中は里山ガイドの方が登山コースに咲いていた植物や木々などについての説明を行った。里山ガイドの方が冗談を言って参加者を笑わせ場が和んだ。

頼もしい里山ガイドの方や村山先生や新潟大学大学院生の四家さんと会話を楽しみながら菩提寺山の頂上を目指した。トレッキング前日に雨が降ったせいで所々ぬかるんでいる道があったり、滑りやすくなっている道があったりと険しい道のりが多かったが、登ること 50 分でついに菩提寺山を登頂した。山頂からは越後平野を眺望でき、紅葉の時期ということもあり赤色や黄色に色づいた山が綺麗だった。山頂についてからすぐにお昼休憩になったので村山先生や四家さんと一緒に山頂からの景色を眺めながら食事を取った。私がビジターセンターで売っていた店員の方オススメのかりんとうを食べていたら、村山先生がおにぎりをおすそ分けしてくれたので、かりんとうをお返しで渡した。

空気が澄んでいて綺麗な景色が見える山頂での食事はとても気持ち良かった。お昼休憩が終わり山頂で参加者と記念撮影を行った後、登ってきたコースと別のコースで下山しながら次のポイントを目指した。

写真 21 白玉の滝 雌滝

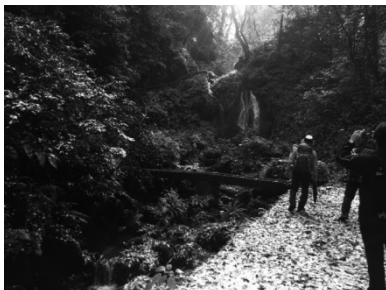


写真 22 菩提寺山山頂からの景色



下山コースの途中では、やまびこが聞こえる「ヤッホーポイント」があり里山ガイドの方が向かい側に立つ山に「ヤッホー」と叫ぶとやまびこが 3 回ほど聞こえた。参加者も続きながら「ヤッホー」と言って楽しんだ。初対面だった参加者たちも一緒にご飯を食べ、険しい道でもお互いに声を掛け合いながら登ることで距離が縮まり笑顔なども垣間見えた。

山頂から 30 分程山道を下り次のポイントの「展望スペース」に着き、景色を撮影した後、また 10 分ぐらい歩き大沢森林公園に到着。ここでトイレ休憩を行い、ここからはアスファルトで舗装された道を歩き竹林などを通りながら 30 分程すると花の湯館に到着した。大沢森林公園を後にした辺りから疲れもあって参加者の足並みが揃わなくなり、それぞれのペースでゴールを目指したが、何とか参加者全員でゴールの『花の湯館』に辿り着くことが出来た。入口の前で記念撮影を行い館内へ移動し村山先生の講座の前に、入浴時間が設けられた。参加者が入浴し終えて全員揃ったところで村山先生の講座が始まった。



写真 23 (左) 写真 24 (右) 大沢森林公園から花の湯館へと向かう参加者たち

村山先生の講座は、トレッキング中に村山先生がアイフォン (iPhone) で撮影した写真をスクリーンに映しながら 1 日を振り返ることから始まった。開会式の集合写真や道中の景色、山頂での集合写真や山頂からの景色、展望スペースからの景色や花の湯館での集合写真をスクリーンに写しながら参加者と 1 日を振り返った。最初は初対面の集まりで表情が硬かった参加者の方も、トレッキングが進むにつれ笑顔になっていくのが写真からもよくわかる。初対面の方がトレッキングを通し仲良くなり笑顔が生まれる。この笑顔が体を健康にする 1 つの要因である。

この日のトレッキングを振り返った後は、前回の講座でお話頂いた自律神経のしくみについての復習や、スクリーンに映し出された文字が何色で書いてあるかを声に出して発する、脳を活性化させるトレーニングなどを行った。その他に参加者全員で一列になり前に立っている人の肩をさすってマッサージをし合うなど、前回の講座でも取り上げた身体を撫で、さすりながら筋肉を伸ばすイメージで行うマッサージを実践した。

今回の講座は、前回座学で受けた講座を実際に体験するものだった。前回は過去に開催された物をスクリーン上で見ながら話を聞いているだけだったが、その話を聞いたうえで実際にトレッキングからの入浴の一連のコースを体験するということで前回聞いた話を体で覚えることが出来た。綺麗な澄んだ空気を吸いながら山の中をトレッキングし自然に触れ自然浴というものを自分なりに感じ、紅葉などの景色に感動し自分の足で大地を踏みしめることでゴツゴツとした道が足の平に与える刺激を感じた。そしてトレッキングや温泉での裸の付き合いを通し初対面の人同士の距離が縮まり、打ちとけ合い、会話をしながら笑顔が生まれ、笑うことで健康に繋がる。そういった感覚を前回の講座で学んだ知識とリンクさせながら自分自身の身体に刻んだ。

また、地域の資源を活かしながら何かを行い、その活動が心と身体のリフレッシュに繋がり、友達が出来て、笑顔が生まれ、そのすべてが健康に繋がる。地域の資源である「地の宝」を利用することで地域が活性化して、人を健康に出来る相乗効果が生まれる仕組みが存在することを村山先生と『花の湯館』さんの講座のおかげで身をもって知ることが出来た。地域活性化や街おこしなどは大人が考えても答えが出せていない難しい問題と講座を通じて改めて認識したが、同時に小さなことでも始めてみることでいずれは何か大きな成果に結びつくのではないかという気持ちにもなった。

地域活性化発表会の後、ゼミでも村山先生に特別授業をしていただいた。同じような気持ちをゼミの他のメンバーとも共有できたのではないかと思います。本当に楽しい経験だった。

6 よもぎひら温泉和泉屋金内智子さんからのヒアリング

日 時：平成 29 年 02 月 03 日（金）11 時～13 時

ヒアリング対応者： よもぎひら温泉 和泉屋 常務 金内 智子 様

参加者： 4 年 丸山 貴樹

教 員： 山川智子

昨年度に引き続き、今年度も長岡市内の温泉・入浴施設の中では格式の高い『よもぎひら温泉和泉屋』で地域活性化アドバイザーでもある金内智子さんにヒアリングを行った。昨年度は行くだけで緊張してドキドキしていたほどだったが、今年度は何度も足を運び、この報告書でもたびたび出てくるが、特別プランを利用して宿泊体験をしたことで一気に心の距離が縮まった。今回のヒアリングでも昨年度と多少の重複はあるが、お互いに深く知り合えたことでさらに内容の詰まったお話が伺えた。大事なことは何度でも伝えたい。

6-1 よもぎひら温泉 和泉屋の概要とヒアリングの目的

『よもぎひら温泉和泉屋』さんは「長岡の奥座敷」とも呼ばれる由緒ある温泉旅館である。観光の拠点として長岡の観光を PR して、地域創生にも大いに貢献している。泉質は単純硫黄冷鉱泉で、身体にやさしくなじみやすいのも特徴である。宿泊客だけでなく、日帰りの立ち寄り湯の利用者に対しても常にレベルの高いおもてなしを行っている。

今回のヒアリングの主な目的は、実際に体験した内容も踏まえ、昨年度からの変化や、最近の利用客の傾向、さらに今後の展望について伺うことであった。



写真 25（左）『和泉屋』の看板と季節の紅葉が見事にマッチしている。

写真 26（右）宿泊した部屋にあった観光案内のパンフレット、説明が親切丁寧。

6-2 金内智子さんへのヒアリング内容：質疑応答形式

質問 1 主にどのような方々に利用して欲しいと思いますか？

温泉を楽しみたい幅広い年代層の人達に来て欲しい。ここの温泉は美肌効果があるので女性の方々に是非おすすめである。性別や年齢を問わず、お客様を大事にしたい。

質問 2 より多くのお客様から来てもらうために、どのような工夫やサービスを心掛けていらっしゃいますか？また、若者の立ち寄り湯利用者で何か変化はありましたか？

立ち寄り湯は、若い人も多く利用してくれている。ここ近年インターネットの影響か、宿泊も含めて明らかに若い人の利用が増えている。よもぎひら温泉にある温泉旅館 3 館共通入浴チケット（期間限定）も好評である。今後、若い人にもっと温泉を身近に感じてもらいたいし、インバウンドを見据え留学生を対象に「温泉体験」の機会も作っていきたいと考えている。

質問 3 今年度のゼミでも利用させていただいた特別宿泊プラン（1 泊約 1 万円）のサービスを始めてから、宿泊利用者はどのように変化しましたか？

明らかに定着している。定期的に期日限定で実施しているが、是非またやって欲しいと好評を得ている。今度はいつやるのかと矢のような催促を受けることもある。宿泊利用者の傾向は時代とともに変わるが、『お日にち限定ぷらん』は評価も高く満足して頂いていると思っている。

質問 4 「長岡の奥座敷」とも呼ばれる由緒ある和泉屋さんがライバルと思っている施設はあるのですか？（蓬平温泉以外の施設などでも）

この業界はオンリーワンの世界だと思っている。周辺地域でのしのぎあいというよりも地域間競争という様相を呈してきている。新潟県内で言うと、例えば村上、五頭、関川、など自分たちの持っている地域素材を活かし様々な活動に活かしている姿勢に危機感と刺激を受けている。この機会に自分達の足元から見直し地域素材を掘り起こし、他の地域に負けないものを磨きあげていくことで自分達のポジションが明確になっていくのだと思う。

質問 5 長岡駅などでよく見かけるエンジ色の送迎バスは 1 つの宣伝ツールになっていると思いますが、その他にも何か特別な宣伝は行っていますか？

あのバスは言わば走る広告塔として、単なる輸送手段ではなく、宣伝においても重要な役割を担っている。お客様が安全に当館にお越しいただくようドライバーにお願いしている。また、積雪の時期などは周辺の歩行者に飛び跳ねがないように、ドライバーに責任のある運転をするよう指導している。長岡駅東口発 13:30 という送迎のバスはお客様にかなり定着しており、蓬平へお越しくださる為の手段の選択肢のひとつにもなっている。

質問 6 11 月末に立ち寄り湯で伺った際、ちょうどスタッフの方が館内と浴室の清掃をされていました。そのような日常的なメンテナンスはどれくらいの頻度で行っていますか？

先に出てきたバスが走る広告塔ならば、スタッフはひとりひとりが歩く広告塔だと思う。又、清掃には力を入れている。特に浴室清掃では 4~5 名の清掃スタッフがローテーションを組んで、1 か所 1 時間くらい掛け念入りに清掃をしている。泉質の関係で手を抜けない場所なのでプロ意識を持ち取り組んでもらっている。又、清掃時間でもお客さまの邪魔にならないように細かく配慮をしながら、清潔な状態が常に維持されるように心がけている。

質問 7 宿泊した際の接客のすばらしさに改めて感動しました。スタッフの方が宿泊客の客室案内からすべてひとりで担当できるようになるまで、どれくらいの研修を行っているのですか？また、接客の手順などをスタッフに伝える際の苦労や、ここだけは必ず守ってもらうといったことはありますか？

スタッフが単独で宿泊のお客さまのご案内から夕食の終わりまでできるようになることを当社は「ひとり持ち」と呼んでいる。一人持ちができるには半年はかかる。基本的なマニュアルはあるがマニュアル止まりでは 70 点。若いスタッフが多いので、まずサービスというものの価値を教えるのが大事だと考えている。人間相手の仕事なので、ケースバイケース、柔軟に対応しながらも、おもてなしの心を常に保つ。日々お客様と真摯に向き合い試行錯誤しながら、時にはお叱りやクレーム等お客様の声に戸惑いながらも自分で経験を積み重ねてゆくことしか『おもてなし』のプロになる方法はない。誠実に真剣に仕事に向き合う姿勢と積極的に失敗を恐れず行動してゆく勇気が大切。若いうちは明るく元気に少し無鉄砲なくらいがいい。決して忘れてはいけないのは素直さと謙虚な姿勢。お客さまから代金をいただく以上、ご納得していただける（おもてなし）を提供できるよう努めてもらいたい。サービス業はハート、想いが重要だと思う。諦めずに挑戦し続けるという強い意気込みと細やかな気配りは忘れてはいけない。

例えば、長岡大学の卒業生でもあるスタッフの星野緑さんは、現在トップレベルのおもてなしができています。感情のコントロールがうまく、常に平常心で接客に従事しています。

質問 8 改めて伺いますが、和泉屋さんの強みやアピールポイントは何ですか？

温故知新という言葉があるが、代々引き継がれてきたものを大切に守りながら、新しいものを積極的に取り入れ時代のニーズに合わせる姿勢がのれんを引き継いでこれた要因かも知れない。お湯は評判で「美肌の湯」とも言われて、女性客に人気がある。当館のイチオシは大浴場と露天風呂であり、ずっと力を入れきた。一番お金をかけていると言っても過言ではない。露天風呂は旅館の顔であると父から教わった。父の思い出だけで造った石を 200 個程使った露天風呂は今でも一番人気である。是非とも実際に来てこの風情と温泉の良さを味わって欲しい。

質問 9 改めて伺いますが、これまで大変だったこと、困っていることは何ですか？

やはり中越地震は最大の試練だった。地震の影響で露天風呂が川に流されてしまった時に、当時の市長のホームページからそのことが世間に広がってしまった。こちらとしてはあまり広げたくはなかったのだが…。災害はインフラの問題と自分の人生を振り返る機会になった。営業再開まで本当に様々な出来事があったが、不思議と乗り越えてきたことであらためて最後は『人の力』だという信念を持つに至った。近年インターネットが普及で、施設の情報がすぐお客様にお伝えできる。その反面、小さいミスが大きなミスにつながってしまうことを懸念している。難しい時代だと実感しているが、インターネットはこれからも活用しつつ新しい顧客発掘と地域発信に努める必要があると考える。

質問 10 昨年度の和泉屋さんのキャッチコピーは「お客さまに笑顔を感動と喜びを」と伺いました。今年度のキャッチコピーは何ですか？

「お客様に最高の笑顔と感動を」と昨年度から少しだけ変わった。「最高の」というひとことを加えたことで、より一層心からの『おもてなし』しようという姿勢を社員に意識し実行してほしいと願っている。当面このキャッチコピーは変えずに行く方針である。

質問 11 改めて伺いますが、観光をどのように考えているか教えてください。

昨年も述べたが、観光というのは「裾野が広い」、「多くの雇用が生まれる」、「地域を発信できる」と地域創生につながる3つの重要な要因を含んでいる。若年層が地元に残り地域に貢献できる状況をつくるためには観光は非常に大切なものである。「興味があるもの」「感動したもの」に人は寄って来る。まさにそれこそが観光の真髄である。そして何よりも大事なことは、観光は人の幸せにつながるものであって欲しいということだ。

人が「そこへ行こう！」と決意する理由はいろいろあるだろうが、究極は人のやさしさやあたたかさに触れることが目的なのではないか。観光の土台となるのは人である。

質問 12 宿泊時に部屋に置いてあった観光案内パンフレットを拝見しました。とても濃い内容でした。しかし、蓬平温泉周辺は今のような積雪の時期にお客さんに「観光スポットなどはないか？」と訪ねられた場合は、どのように対応されているのですか？

確かに冬の時期は屋外での行動が制約されやすい。しかし、長岡周辺の観光スポットとしてお客さまに是非行ってみたいという場所は屋内も多いので、それなりに満足していただけていると思う。今考えているのは、ある意味でカセとなっている雪をうまく活用できないかということだ。越後湯沢やその他の豪雪地区ほどに圧倒的な量ではないが、この雪を主軸とした文化的な試みや切り口がないかと検討している。

質問 13 昨年度のヒアリングからここ1年間で、何か大きく変化したことはありますか？ また、今後新たに考えているプロジェクトなどはあるのでしょうか？

地元だけに限らず、北陸新幹線の開業で関西やその他の地域の動きや社会情勢にも注意を払っている。観光はきっかけづくりや仕掛けというものが大切と考える。みんなの意表をつくようなアイディアが浮かんだら本気を出して実行するくらいの意気込みは持っていたい。いくつか考えているプランはある。地域に活気をもたらす切り口になればと思う。

6-3 【ヒアリング後の考察】金内智子さんからパワーをいただいて考えたこと

ヒアリングに応じて下さった金内智子さんは不思議な魅力を持っている。これは先に紹介した村山先生についても言えるのだが、お話を伺うだけで何だか元気になってくる。そのような方々に地域活性化ゼミ活動のアドバイザーをしていただけたのは本当に有難いことだった。前回もそうだが、今回もお忙しいところを貴重なお時間を割いて語っていただいた内容は一生の心の財産になるものばかりだった。大事にしてゆきたいと思った。

用意した質問事項以外にも、大変に参考になる経営のお話やこだわりなども伺えた。『お客さまに最高の笑顔と感動と喜びを』、温泉は笑顔をもたらすパワースポットだ！

7 宿泊における魅力と日帰り温泉との比較検討

2016年11月1日から2日にかけて『よもぎひら温泉和泉屋』で行った宿泊体験をまとめた。今回の宿泊体験の目的は、主に3つであった。①和泉屋さんでの宿泊の魅力、②宿泊と日帰り温泉の違い、③宿泊する際のコース考察のための周辺散策である。

結論から言うと、宿泊体験はとても楽しかった。日帰り温泉では味わえない様々なことを経験できて、はっきり言って予想以上に満足度が高かった。

その中の一つに食事があった。日帰り温泉でも食事処がある施設は多いが、会席料理はなかなか食べられない。個人的に印象に残ったのは、お米を釜に入れその場で炊き上げるサービスだった。食事の開始と共に火を付けて、頃合いを見て炊き立てのご飯を頂くことが出来た。料理の量は男子大学生の自分でも十分に満足できるものだった。それでも話に聞いていた夜のラーメン処に先輩らと出向き、しっかりと夜食のラーメンもいただいた。このラーメンは味わいも量も程良くて、飲み会の締めなどに食べたら最適だと思った。



写真 27 (左) 『よもぎひら温泉和泉屋』さんから眺めた冬の雪の風景

写真 28 (中) 今回の宿泊でいただいた夕食の様子、品数も豊富だった。

写真 29 (右) 夜9時以降に開く「ラーメン処」でいただいたラーメン。

宿泊での魅力に部屋でゆっくり寛げることがあった。日帰り温泉でも休憩所や仮眠室を備えた場所もあるが、全体的にざわざわしていてなかなか落ち着けない。余計な気を遣うストレスがない分、開放的な気分を味わうことが出来た。日帰り温泉での個室利用は時間制限があるが、宿泊では部屋に留まっている必要がなく、かなり自由度が高かった。食事から戻ると、部屋にはきちんと布団が敷いてあり、至れり尽くせりだった。今回の宿泊はちょうど紅葉の季節だっただけに窓から見える景色はとても良かった。

旅館に泊まると、ただ何もしない幸せを得ることが出来る。これは自分たちで泊まってみて初めて得られる感覚だった。今年度の活動では随分とさまざまな温泉を回ってきたが、この感覚を得られたのは宿泊体験の時だけだった。なぜ日帰り温泉では得られず、宿泊をしたときのみ、感じられたのかは、自分の経験の無さからか、実はまだよくわからない。

宿泊を行う前は、個人的に温泉旅館はただ高いだけの先入観があった。しかし、今回の体験で温泉旅館での食事、幸福感などの自分にもたらす効果は、金額に見合うだけの価値があると納得した。これらは実際に体験した上で初めて理解できたことであった。

宿泊の際、和泉屋さんの周辺散策も合わせて行った。和泉屋の近くにある高龍神社は何百年にも渡り信仰の対象となってきた。由来によれば、今から約600年前に、南朝の武将高野木（コウノギ）民部永張が戦いに敗れて深手を負い、会津に向かう途中で、龍神の住むという蓬平（ヨモギヒラ）に辿り着き傷を癒したという言い伝えがあるそうだ。高龍神社の御神体は龍の使い、白蛇が祭られて商売繁盛にご利益があると言われている。途中までエレベーターもあったが、そこから先の階段はかなりの急勾配で、当時は雨上がりで滑りやすかった。参道入り口付近の売店では、御神酒、ロウソク、生卵が入ったお供えセットが売られていた。



写真 30 高龍神社の階段

この一泊二日の宿泊体験を踏まえて、宿泊と日帰り温泉や立ち寄り湯のそれぞれの魅力を改めて考えてみた。以下は、学生同士の話し合いで出た意見をピックアップしたものだ。

<宿泊のメリット>

- ① 温泉を気の済む隅々まで堪能できる。

日帰りに比べて宿泊では、ある程度時間に余裕が出来る。そのため長時間の滞在により、温泉を思う存分楽しめる。温泉のもたすりリラックス効果は、ゆっくり浸かることの方がより効果的に感じられる。

- ② 施設によって異なる美味しい料理を味わえる。

どこの旅館に行こうかと決める際に、料理を重視する人も少なくないだろう。普段あまり食べることのできない類の品であることで贅沢な気分を味わうことが出来る。

- ③ 何よりも思い出になる。

温泉に宿泊することは、そうそう年に何度も出来ることではない。貴重な体験ゆえ一種の特別な思い出が生まれる。行った後も、その時一緒だった仲間と、思い出を語り合える。強く記憶に残る楽しい思い出こそが最も大きい利点だ。

<日帰り温泉や立ち寄り湯のメリット>

- ① 少しの空き時間でも寄ることが出来る。

日帰り温泉では、宿泊とは違い、準備にあまり時間をとられず、旅先でも気が向いたら立ち寄ることが可能だ。その時々状態に合わせて時間の自由が利きやすい。

- ② 仲間を誘いやすい。

日帰り温泉のメリット①でも示したように自分で好きなタイミングで行けるため、仲間と予定を合わせやすい。また、料金も比較的リーズナブルなので、気軽な気持ちで行くことが出来る。

次ページ以降でも述べるが、日帰り温泉や立ち寄り湯の良いところは、他の目的と併せてプランを立てやすいという点でもある。両方のメリットを味わえたことは良かった。

8 温泉を軸とした日帰りモデルプラン：車持ち実家暮らし(栃尾)の場合

長岡周辺地域には温泉・入浴施設が数多く存在するが、若者の遊び場・デートスポットとしては馴染みにくい面もある。長岡の温泉は魅力的なものが多いが、若者の姿はあまり見かけなかった。そこで、自らの体験を元に、どうすれば若者が温泉に出向き、最大限楽しむことが出来るのかを考えて、温泉を主体としたモデルプランを考えてみた。

(1) 太古の湯（寺泊）を中心としたモデルプラン



写真 31 （左）太古の湯外観

写真 32 （右）太古の湯の浴槽の様子（ホームページから引用）

長岡大学からは案外遠いが、学生間で人気のあるドライブスポットに寺泊がある。寺泊と言えば海である。海と言えば釣りである。寺泊市場の賑わいもさることながら、寺泊では海に関することであれば大抵のことは体験できる。市場では通りに面して串焼きの販売がいくつもあるので、手軽に海の幸を味わえるのも魅力である。個人的には釣りが好きなので、釣りを楽しんだ後に『太古の湯』で汚れや疲れを取るというのを想定した。

寺泊地区には他にも温泉旅館や入浴施設などさまざまなものがある。その中で『太古の湯』を選んだのは、ゼミ活動で調査に伺った時の対応がとても親切であったからだ。長岡大学から寺泊までの往復（途中釣りえさの購入など多少の寄り道はしても）大体 75.5km である。まだ運転に不慣れな若者としては、移動だけでも結構疲れる行程である。そして、最後に仕上げの温泉だ。温泉の効能は、疲労の蓄積に対して効果的と感じている。釣りをすると餌や魚の匂いが手や身体に染みつくし、潮風のせいで髪の毛がごわごわになる。水で洗い流すだけでは中々取れないので厄介だ。温泉はそれらの全てを解消してくれる。

『太古の湯』では休憩室に座敷やテーブルがあるが、4 人掛けでちょうどいい大きさの物が多いので是非活用したい。ちなみにタオルは入浴料金に含まれないので持参するのをお勧めする。

ここの休憩室は 1 階と 2 階で分かれている。仮眠が 2 階で出来るので、運転をして軽く横になりたいときは、1 階と 2 階で分かれることで他のメンバーも退屈せず休息を得ることが出来る。午後 5 時以降は夜間割引で料金が 500 円と安くなるが、『太古の湯』の最大の魅力はオーシャンビューである。なるべくならば日没前に雄大な眺めを味わいたいところだ。

(2)おいらこの湯を中心とした栃尾満喫プラン

海の次は山である。山とくればスキーである。スキーを楽しむなら栃尾は是非お勧めだ。実を言うと栃尾は地元なので、栃尾のいいところをなるべくみんなに知ってほしいという熱意がある。あれこれモデルプランを考えながら気が付いたのは、地域の紹介をするならば、そこに住んでいる人柄を伝えることも重要なポイントではないか、ということだった。



写真 33 (左)『おいらこの湯』外観



写真 34 (右)『おいらこの湯』の内部

『おいらこの湯』は近郊の温泉施設の中では 2012 年オープンと比較的新しい。内装もきれいでトイレも清掃が行き届いている。清潔さを重視する若者にも自信をもってお勧めできる温泉だ。注意点としては、地元の人が多く利用するので混んでいる時間帯は駐車場が満杯になることだ。また冬期は無料の足風呂は開いていない。食事処の営業は昼のみで、夜はやっていない。休憩所はスペースが広く取ってあるので、比較的気兼ねなくゆったりとした時間を過ごせるだろう。

よく知らない人にその地域を紹介する際に、温泉と道の駅はランドマークとして重要である。いずれも人が多く出入りし、地元の人もが大勢集まる場所だ。

日帰り温泉に行く時に、場所を選ぶ基準としてその地域を知っているかどうかは大きな指標になりえると思う。実際自分が温泉に行く際にも、温泉自体の魅力は A の方が高いけれど、B の方が行く道や周辺の施設を把握している状態では、B の温泉地に向かうケースが多いと感じている。また、温泉に行くことでその地域に対する理解が深まるということも十分にありうると考える。



写真 35 (左) 道の駅とちお R290



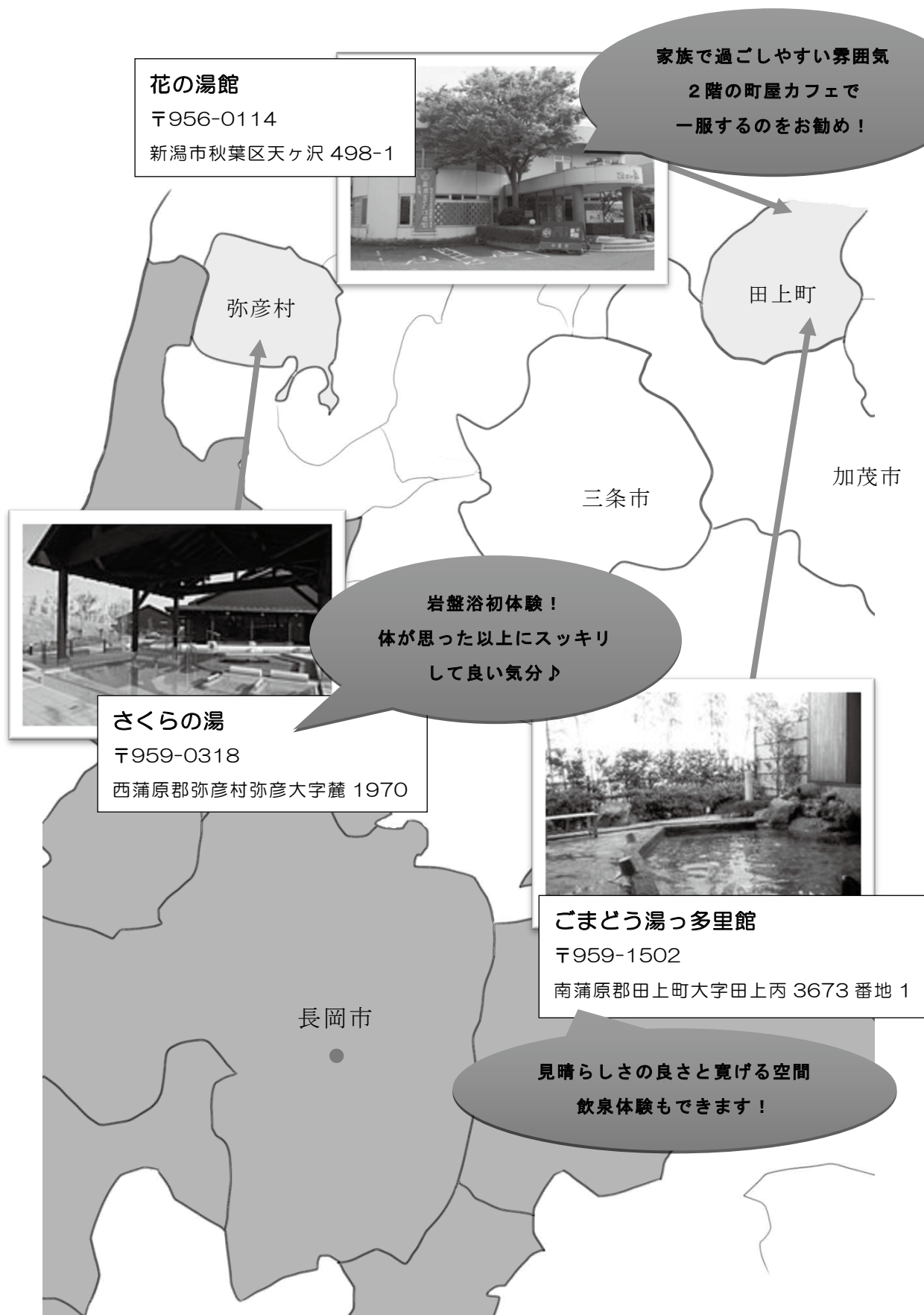
写真 36 (右) 栃尾ファミリースキー場

9 長岡一人暮らしの女子大学生（車なし）が考える日帰り温泉プラン

9-1 今年度のゼミ活動で体験した温泉施設（2016年4月～11月）

ゼミ活動を通して行った温泉施設は下記のマップに示したように長岡市内のみならず新潟県の広域に渡る。但し、長岡駅や長岡大学からの距離や交通アクセスを踏まえると、個人又は友人と行く場合は自家用車で行く方が何かと便利である。





(※写真はいずれも公式サイトより引用)

9-2 地域活性化活動を経験した上でお勧めしたい3つのプラン

9-2-1 温泉初心者の女子学生が考える日帰りプラン

本稿は長岡在住の女子学生が一人または友人と行くことを想定して、モデルコースを練ったものである。筆者は新潟市中央区出身で、現在は長岡市で一人暮らしをしている。車を所持していないため、どうしても行動範囲が限られている。移動の場合は、公共交通機関を利用するか、自家用車を所有する友人が同行するものと想定する。また気軽に温泉を楽しめるように、平日の授業が終わった後に日帰り温泉に行くという前提である。移動の利便性を考慮して、長岡駅を出発地点として3〜4箇所の温泉施設を提案する。温泉の初心者が1年弱温泉調査の経験を踏まえて考えた。温泉初心者かつ長岡の温泉に興味がある人には是非行ってみたい場所ばかりである。

9-2-2 長岡大学から行きやすく勧められる温泉施設

(1) 麻生の湯：すぐにでも温泉体験をしたいのならココ！

長岡大学から最も近い温泉として、リラクゼーションもできる『麻生の湯』がある。大人の入浴料は800円だが、午後5時以降は夜間割引で670円となる。入館料はタオルとバスタオル込みの料金なので、着替えさえ用意すれば荷物があまり重くならず済む。

火曜日限定の「ゆあがりセット」は食事に入浴料込みで1,300円と断然お得である。特にこのセットについてくる唐揚げはとても美味なので、是非とも一度味わって欲しい。長岡駅と『麻生の湯』を結ぶ無料シャトルバスは火曜・水曜限定で出ている。周辺に他に見て回ったり遊んだりするような場所がないため、温泉のみを楽しむプランとなる。長岡大学から車であれば10分程度で着くので長岡の温泉体験の取っ掛けには最適である。

(2) よもぎひら温泉和泉屋：何度でも来たいと思える温泉ならココ！

『麻生の湯』と同じく、長岡駅東口から送迎車が出ている『よもぎひら温泉和泉屋』も是非行ってみたい場所だ。日帰りの立ち寄り湯の大人料金が1,000円であるため温泉初心者には少し高く感じるかも知れない。しかし、男女日替わりで趣きの異なる3種類の露天風呂を楽しめることやおもてなしの良さから、初めて温泉旅館を利用する人や大切な人と行きたい時には是非お勧めである。豪華な内装もすばらしいが、流れているBGMもオルゴールの音色だったり、川のせせらぎだったり落ち着いた癒しの雰囲気醸し出している。天高く開放感溢れる空間の「風の湯」、効能の異なる3つの岩盤浴を楽しめる「星の湯」、四季それぞれに異なる自然の趣きを味わえる「月の湯」と露天風呂はどこに入っても満足度が高い。料金以上に充実したサービスを味わえる場所でもある。

難点は、山間にあって途中の道路が狭く、送迎バスや自家用車がないとなかなか単独では行けないことだ。混雑時には立ち寄り湯が利用できないこともあるので、行く際には面倒でも事前の問い合わせはした方がいいと思う。

(3) 越後長岡ゆらいやと華の湯：入浴と遊びを両立させるならココ！

車を所持している友人と入浴しながら周辺の施設を利用するのであれば、スーパー銭湯『越後長岡ゆらいや』・『華の湯』は外せない。『華の湯』はショッピングモールや映画館、カラオケやゲームセンターなど大学生向けの施設が集まった「リバーサイド千秋」に近い。『越後長岡ゆらいや』は、川崎インター近くで大学から最も近い入浴施設で便利である。

『越後長岡ゆらいや』・『華の湯』は共に会員大人料金 600 円で、各種リラクセーションのサービスもオプションで利用可能だ。基本的には両施設とも同様の設備だが「越後長岡ゆらいや」は男性同士、高濃度人口炭酸泉がある「華の湯」は女性同士の方が向いていると思う。「華の湯」では、以前恥ずかしい思いをしたことがある。下駄箱の鍵は自己管理なのに知ったかぶりしてフロントに出してしまった。高濃度人口炭酸泉は血圧・血行不良の改善や疲労回復効果があるという。ややぬるめだが、湯上がりはほどよい気分を味わえた。「越後長岡ゆらいや」では幻想的な光景が素敵なトンネル風呂やごろ寝の湯、各種ジェットバスなど種類の豊富さが魅力でもある。両施設とも気軽に入りやすい雰囲気なのもいい。

9-2-3 新潟市と長岡市の温泉施設・入浴施設事情の違いについて

(1) 交通アクセス面での違い

出身地の新潟市中央区と 2 年近く一人暮らしをしている長岡市の違いは何があるのか。交通面で見ると、新潟市特に中央区は主要地域がそう距離を置かない位置にあるのでバスや自転車などで大体の場所へ行ける。JR だけでなくバスセンターもあって利便性は高い。例えば、新潟市内でも特に賑わう万代シティと新潟駅は徒歩にして約 10 分の距離である。中央区だとこの 2 カ所だけでも十分に買い物・娯楽などの用件を済ませることが可能だ。

一方で長岡市は信濃川と長岡駅各々を跨いだ東西で住宅街と商店街のバランスに差がある。実際に筆者が友人と出掛ける時は、長岡駅の周辺か西側の施設に行くことが多い。東側である長岡大学の周辺となるとアクロスプラザ長岡で買い物をして帰る程度で、それ以外で足を伸ばすことはほとんど無いと言ってよい。

(2) 施設の所在地による違い

新潟市の目ぼしい温泉は、秋葉区の「花の湯館」・「花水」、西蒲区の「遊雁の湯 よりなれ」・「じょんのび館」・「カーブドッチ ヴィネスパ」・「だいろの湯」と中央区以外にある。両地区は中央区から少々距離があることと中央区内で娯楽施設が充実していることもあり、わざわざ他の区にある温泉に行く気が起きなかった。その上、新潟市は一つの区に住宅街と商店街が密接になっている場所が多く、その密接した空間からある程度の距離を置く区外となると遠くまで行く必要を感じない。長岡市は住宅街と商店街がはっきりと分けられた立地が多く、個人差はあるが新潟市の区ほど距離を感じるものがなく広いからこそより遠くまで行くことに抵抗が無い。よって 2 つの市の住宅街と商店街の距離感や境界線が人の目的地への距離の認識を左右していると考ええる。

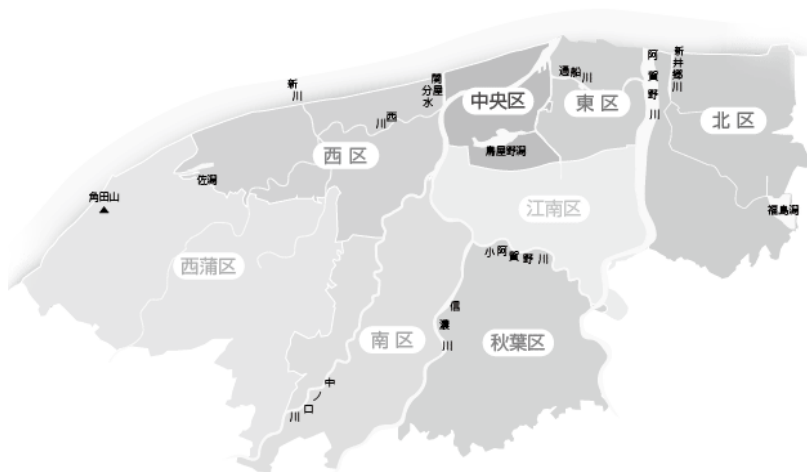


写真 37

新潟市 8 区の地図
(公式サイトより引用)

9-2-4 温泉初心者が体験を通じて変化したこと

(1) 日帰り温泉一人旅で苦労したこと、得られたこと

2016 年 8 月 20 日、夏休みを利用し JR のえちごワンデーパスを使い、単独で関川村の『桂の関温泉ゆ〜む』への調査活動を行った。普段電車を利用することがないため乗車時間と乗り継ぎの時間を調整する作業だけでもかなり疲れた。当日、朝早くに長岡駅でワンデーパスの領収書を書いてもらうのに苦労して、事前に購入しておけば良かったと準備の大切さを痛感した。2 回の乗り継ぎの合間には 1 時間ほど待ち時間もあり、4 時間くらいかけて『桂の関温泉ゆ〜む』にたどり着いた。帰りの行程を考慮するとあまり長居はできないが、併設の道の駅を 30 分ほど散策した。無料で利用できる足湯「ちぐら」は満員状態で入れず、帰り際に写真だけ撮った。



写真 38 足湯「ちぐら」

いざ、『桂の関温泉ゆ〜む』に入館すると家族連れや友人同士で来ている人が多かった。地域の温泉として親しまれているようだ。女湯には歩行浴槽があったのが印象的だった。地域向けかつ健康志向で、一人でも利用しやすい雰囲気なのが良かった。今回の一人旅では JR を利用したが、思ったよりも苦労した。公共交通機関は時間に縛りが大きいので、自家用車に乗せてもらうありがたみを再認識した。この経験で計画力と実行力を鍛えることができた。一人気ままに旅をしたくなった時や自家用車でドライブに行く分には良い距離であったと思われる。



写真 39 『桂の関温泉ゆ〜む』外観

(2) 地域活性化活動を通して得たこと

地域活性化ゼミに参加して変わったのは、温泉に対する見方や考え方である。入浴料に見合うサービスの充実とは何かを考え、温泉施設の館内の設備、周辺のロケーション等も含めて広い観点から施設を意識して見るようになった。入浴料、営業時間・定休日の設定、館内の附属施設、宿泊施設の有無、館内の清掃状況、バリアフリー対応など細かく見ると特徴が掴めてくる。若者が好む施設かそうでない施設かも大体わかるようになってきた。

一方で自分の弱点も再認識した。例えば、温泉施設がある地名と地図上の位置があまり結びつかないことだ。方向音痴ではせっきくの経験を日常生活で活かすことが出来ない。敢えて地図を作成して内容を整理することで、今まで体験してきた温泉施設の位置関係や大学からの距離を把握できた。今まで足りなかった自主的な行動力を伸ばす機会と自身の弱点を改善する機会をこのゼミ活動で得られた。

9-2-5 経験を踏まえて温泉を3つの観点から考えた

(1) 地域の結びつきと「温泉の魅力」

温泉が「地域の宝」であると、経験を通じて感じる事ができた。しかし、温泉施設で若者を見かけることはあまりなかった。温泉を「地域の宝」としてこれからも活用するために若者ももっと温泉を活用して欲しい。温泉入浴だけでなく、各種リラクゼーションや、カラオケやプールなど温泉以外の魅力も兼ね備えている所が多かったからである。

(2) 温泉の持つ「力」を宿泊体験から得る

『よもぎひら温泉和泉屋』で宿泊体験をしたことで温泉の「力」を感じる機会を持てた。帰りの心配など他のことで気負わずに温泉が心地良いものであると感じることができた。日帰り温泉では施設の特徴を掴むのに集中していたため、温泉で体を休めることにまでは意識が向かなかった。宿泊で気を抜く時間があつたからこそ温泉の魅力に原点に返って気付くことができたのだ。目に見えるデータも大切だが、一般の客は温泉にこの心地良さを求めていると思う。この感覚こそが温泉の持つ「力」ということである。宿泊体験により温泉の持つ「力」が何かをゼミ学生がそれぞれ感じ、全員で共有できたことが収穫である。

(3) 温泉において大切なこととは何か

温泉に入る前に掛け湯するとか、最低限かつ基本のマナーを守ってこそ温泉を楽しむ。活動で得たものを皆に情報発信して広めることもこの活動においては大切なことである。

温泉は多くの人々が利用する場であるので、多くの人々との出会いを得られ繋がることができる。人との出会いと繋がりとは、温泉という裸の付き合いの場だからこそ起こりやすく大切にしたいものである。しかし、自分の体調を把握して心身を気遣うこともまた温泉を楽しむ上で大切であると実感したのも貴重な経験となった。

10 日帰り温泉におけるリラクゼーション体験の報告

2016年7月19日『麻生の湯』で初めて体験したリラクゼーションサービスをまとめた。『麻生の湯』には、個人的にもかなり頻繁に行っている。長岡大学から最も近い日帰り温泉施設だし、露天風呂からの長岡市の眺めも素晴らしい。地域活性化ゼミ活動が始まって、最初に行ったのが『麻生の湯』だった。しかし、まさかこんなサービスがあったとは知らなかった。「男子学生目線での日帰り温泉リラクゼーション体験」が、今回の調査の狙いだ。

入浴や食事だけでなく、プラスアルファとしての体験サービスとして「リラクゼーション」（マッサージとかいろいろあるようだが、正直言ってあまり区別がついていない…。）がある。まず温泉に入り身体をきれいにすることから始まった。普段通り温泉に入って汗などを流す。私はいくつかあるコースの中からフットケアの40分のコースを体験した。料金は3,900円だった。施術の時間や対象部位によって細かく料金体系が作られている。学生個人としてはちょっと高いような気もするが、一般的な相場としては妥当なものだという。入浴後、専用の術衣に着替えてから、フットケアのサービスを受ける場所へ行った。（『麻生の湯』では、食事処のそばにある）最初に足全体をざっくりと揉み解された。続けてローションかオイルのようなものを塗られた。老廃物を出して、血行を良くする効果があるというものらしい。

私は整形外科での治療経験が割と多いのだが、ただ足を揉み解されるというだけのサービスは初体験で少し緊張してきた。最初はとても痛く顔を顰めてしまう時が多々あった。普段の私ならば多少痛くても我慢するのだが、今回の足つぼマッサージでは思わずもっと弱くして下さいとお願いしてしまった。足の裏のツボで悪いところがあると痛いというのは知っていたので、自分の身体に悪い箇所があるんじゃないかと心配になってきた。

足つぼの後は膝上まで圧迫されるようなマッサージを受けた。それも最初は痛く感じたが我慢できるものだった。サッカーとフットサルを週3回程度やっているため筋肉やその他の足の部分に疲れが溜まっていたみたいだ。全体的に痛かったが慣れてくると気持ちが良かった。気持ち良くて眠くなってしまった。意外と時間がたつのが早くあっという間に終わってしまった。足がとても軽くなった感覚があった。温かいものを特に使ったわけではないのだが、何故か足が温かくなっていた。血行が良くなったのではないと思った。

ただ優しく気持ちいいだけではなかったが、実感として身体に良い効果があるサービスが温泉施設でお手頃な価格で受けられるのはすばらしいと思った。このようなサービスは主に女性が利用するものだと思っていたが、意外にも男性の利用客も多かった。スタッフの方に話を聞くと、男性のリピーターも結構いるらしい。最近ではあちこちにマッサージのサービスが増えてきているが、温泉入浴のついでに気軽にサービスを受けられるというのは、確かに便利だ。何よりも癒された感じを味わえるのが魅力である。私が受けたのはフットケアだが、全身のボディケアや顔や首を中心とするフェイシャルケアなど、本当にさまざまなサービスの種類があるようだ。

『麻生の湯』自体は何回も利用しているが、このようなサービスがあることはこれまで気づけなかった。今後温泉施設を利用する際には、温泉入浴以外のサービスにも今後注目しながら利用したいと思う。温泉施設に対する見方が変わり新たな発見もたくさんあったので、今回の調査での体験は個人的にも非常に価値があったと思っている。

11 横田百合江さん☆ドキドキ縄文カフェインタビュー

日 時：平成 29 年 01 月 18 日（水）15 時～16 時
インタビュー対応者： 長岡大学 3 年生 横田百合江 様
参加者： 3 年 藤田 春樹

11-1 横田百合江さんへのインタビュー（ヒアリング）の目的

まず、横田百合江さんは長岡大学の 3 年生である。つまり私とは同学年の学生である。地域活性化ゼミ活動では他にもさまざまなヒアリングが行われているが、同学年の学生相手というのはこれが初めてだろう。なぜ彼女にインタビューしたのか。明確な理由がある。

横田百合江さんは、今年度行われた「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト」にて『縄文カフェ』というアイデアで、いいね！アイデア部門最優秀賞を獲得している。

これはすばらしいことだと思う。改めて後述するが、今年度ゼミ活動を行って最も頭を悩ませたのが、若者がなかなか温泉に行こうとしないという点である。このインタビューの最大の目的は、見事最優秀賞を獲得した『縄文カフェ』というアイデアで若者を呼び込もうと考えた横田百合江さんにアドバイスをもらうためである。彼女にインタビューをして、若者の温泉離れという問題を解決する発想のヒントが得られたらと思ったのだ。



写真 40 ながおか仕事創造アイデア・コンテストの様子（長岡大学ホームページから）
写真前列右から 6 人目が横田百合江さん。

11-2 横田百合江さんへのヒアリング内容：質疑応答形式

質問1 なぜ『縄文カフェ』というアイデアを思いついたのですか？

企業家塾からの流れで「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト」に出場した。現在の長岡市には何も無いと若者が言うのをよく耳にすることがある。長岡市には何も無いのではなく、若者が知ろうとしていない、または知る機会がないだけであって沢山の魅力がある。長岡市の魅力を若者に伝えるために、長岡の歴史である火焰土器と縄文文化を使ってカフェにしようと考えた。

質問2 『縄文カフェ』では若者を呼び込むためのどのような工夫がありますか？

若者（10～30代）を呼び込むために珍しさを取り入れた。美術館や博物館の展示物をモチーフにした食事やサービスを提供する。食器に土器のレプリカを使い、制服は縄文時代をイメージした服。店舗は竪穴式住居をイメージした内装にして食事はランチに長岡野菜、ジビエを使った縄文鍋、デザートにどんぐりのクッキー、土器柄のラテアート、火焰土器風のコーンに入れたソフトクリームにする。縄文体験として、縄文土器づくり、勾玉づくり、縄文服の試着。こうした珍しさを取り入れることにより新しいものや珍しいものの好きの若者が来るのではないかと考えた。さらに若者が気軽に入店できるようにカフェにした。

質問3 この企画を練り上げるのに大変だったことは何ですか？

たくさん出たアイデアをプレゼンテーションで発表するために練っていくのが大変だった。アイデアがよくてもプレゼンテーションが上手くないと伝わらないと言われ、プレゼンテーションのやり方にも力を入れた。アイデアに指摘や指導されたが、実現したいビジョンが明確にあったため、変えることなく意見を貰った。

質問4 温泉についてどのような印象を持っていますか？

以前から温泉に行きたいと思っているが、何か特別なことでもないに行く機会がない場所である。旅館など宿泊施設付きの温泉は気軽にいけない場所だと思う。若者がほとんどいなくて、ご年配の方が多そう。

質問5 温泉に行くのにネックになっていることは何だと思いますか？

微妙に遠く、山道で行きづらい。温泉に入浴するためにだけに出かけるのも億劫な気がする。車がない人には移動手段がないので行く気にならない。

質問6 温泉に行くメリットは何だと思いますか？

温泉に浸かり日常の生活を忘れてリラックスできることや、自宅の風呂にはない温泉による効能や癒しの効果がある。普段は味わえない温泉ならではの雰囲気や空間を味わえる。

質問 7 温泉施設に若者を呼び込むにはどうしたら良いと思いますか？

施設ごとに個性をより強く出していくことが大切だと思う。例えば『縄文カフェ』の火焰土器型のコーンを使ったアイスクリームや火焰土器造りのようにここでしか味わえないサービスを考えてどんどん試していくべきだと思う。

さらに期間限定で若者に人気のアーティストや有名なパティシエとコラボレーションし、斬新なデザインの更衣室や浴室にして、おしゃれな写真を撮りたくなるようなデザートを提供してみる。

温泉ライブをするのも良いと思う。若者が好きなアーティストを呼び、温泉に入りながら（男女水着着用）ライブを楽しめるといった新しさ。珍しいことやお客さんが喜ぶようなイベントやサービスをしていれば、SNS で噂になって若者を呼び込めると思う。要は他の温泉施設との差別化をしていかないといけない。さらに 25 歳以下若者割引やおひとり様割引など、現在の若者が一人でも来やすいようにしてみたらよいと思う。

質問 8 温泉にあったら良いと思うものは何ですか？

アメニティの充実。温泉街のようなかわいい浴衣のレンタルができること、その土地の名産を食べられる雰囲気のあるレストランや野外テラスがあるなど若い女性が喜ぶようなものがほしい。

11-3 【インタビューからの考察】若者の利用者を獲得するためには

温泉と縄文土器の共通する問題点は、どちらも長岡の魅力、すなわち「地の宝」であるにも関わらず、若者がほとんど知らないこと（またはあまり馴染みがないこと）である。

長岡市とその周辺地域の温泉施設にとって、どのようにして若者を呼び込むかがこれからの重要な課題であると感じている。温泉だけのために出かけるのが億劫だと横田さんは言っていた。それが今の若者の正直な声だろう。現に当ゼミ学生も温泉のためだけに外出するという者はこれまであまりいなかった。

これからの時代は、横田さんの『縄文カフェ』のようなその施設でしか味わえないサービスを作りだし、温泉だけでなくその他に若者が魅力を感じるような何かがある施設にする必要があるのではないか。話を伺いながら、横田さんの発想の柔軟さと着眼点の鋭さに圧倒された。また芸能人とコラボレーションしたおしゃれな館内、若い女性が喜ぶアメニティを豊富にすること、若者の喜びそうなアーティストのライブをすることなどはアイディアとしてもとても面白い。実際に横田さんの考えたアイディアを実践している温泉施設はほとんどないと思う。このアイディアを実行するためには、まず施設のスタッフに若者を増やすことが必須であると感じた。

インターネットを使い SNS など積極的に温泉施設や、イベントを発信していけば地域の若者だけでなく、興味を持った県外の若者や外国人の集客が望めるのではないか。この

ような取り組みを続けてゆくことで新潟県に若者を呼び込むことができ、経済的にも潤い、地域も活発化するのではないかと期待している。

そのために、温泉施設もただ従来からのやり方を守るだけでなく、例えばアイデア・コンテストをしてアイデアを募る必要があるとインタビューをしながら考えた。アイデア・コンテストをすることによって若者が温泉施設について考えるきっかけになるのである。募ったアイデアの中で最優秀賞のアイデアをさらに練りに練って改善し、実践していくこと、実践して浮き彫りになった問題点をまた改善してさらに実行していくことが重要だと感じている。いわば PDCA サイクルだが、このような動きを繰り返していくことが温泉に若者を呼び込むためには必要である。

実際に温泉の調査活動をしてゆく中で、温泉施設のほとんどが若者の喜ぶようなサービスがあまり充実しているようには思えなかった。若者を呼び込むためには温泉も時代と共に変化していかなくてならないのである。

忙しい中で快くインタビューに応じて下さった横田さんには、心から感謝とリスペクトをしている。こちらが用意した質問事項だけでなく、同学年の気安さもあって、地域活性化ゼミ活動の話やその他の話題でも盛り上がった。同じゼミのメンバーと温泉についてあれこれ考えるのとはまた別の刺激があった。最後に、横田さんからのアドバイスとして、地域活性化活動を行う上で彼女自身が気をつけていることを3点示して締めくくりとする。

- ① ヒアリングへ行く際には事前準備は万全にする。
- ② コミュニケーション、伝えることと聞くことは大事。
- ③ 愛想の良い対応を心がける。

以上の3つは、課外活動を行う上でどれもこれも大事なことばかりだと思う。今後とも肝に銘じておきたい。



写真 41 (左)

横田百合江さんとのツーショット

写真 42 (右)

横田百合江さんの記念ショット

12 ゼミ活動を通じての温泉調査の振り返りと総括

今年度の温泉調査を振り返って、調査していく中で感じたゼミ学生の意見をまとめた。

12-1 温泉へ行くのにネックとなっていることと予算の見当

意見が多く出たのは交通面の問題である。車を持っている学生からはガソリン代の自己負担が大変という声や、道がわかりづらくルート検索が大変である、山道で道幅が狭く運転が怖い、夜中になると街灯が少なく危ないという意見も出た。車を持っていない学生からは交通手段がないため行こうという気にならない、路線バスがあっても待ち時間が多くて移動が不便という声も聞かれた。全員一致なのは、荷物が多くなるのが困る点だった。

若者を温泉に呼び込むためには、交通手段や道路整備などインフラの改善が必要と思う。運行バスを多くするという意見も出たが、経費や利用客さんの数が日によってバラバラであるため実現はなかなか難しいだろう。

予算については、入館料や食事代その他を考えて1回当たりの日帰り温泉利用では1,500～2,000円程度が好ましいという意見に集約した。宿泊では10,000円～15,000円程度が良いとなった。（実際に宿泊体験した『よもぎひら温泉和泉屋』さんでの1人当たり一泊二日料金は特別プラン利用で10,950円だった。通常ではもっと高いはずである。）

温泉に泊まるというのは何か特別な日や連休といったことが多いため、学生でも少しは奮発するだろう。話し合って全員が妥当と思った金額が10,000円～15,000円だった。

12-2 温泉施設への設備上の要望と施設を選ぶ基準

男女共通の要望として真っ先に上がったのが、浴室や脱衣所の定期的な清掃と清潔の維持である。温泉に行くと汚れが目立ったりするのを見ると、気分も萎えてきてしまう。

男子からは、タオルセットがついてくる場合は、フェイスタオルの増加（大抵は1枚）、バスタオルも貸してほしいという意見が出た。原則としてゼミ活動では毎回自分のタオル持参だったが、入館料にタオル付きの方が便利だった。タオルの色合いや材質などよりも余計な荷物を持たなくて済むという点が重要だった。女子からはドライヤーと洗面台の数が少ないので増やして欲しいという意見が出た。女性は髪が長い方が多いため、髪を乾かすのに時間が掛かるからである。その人の髪質や長さ等によっても事情は変わってくる。

温泉施設といっても多種多様でサービスもそれぞれ違う。一緒に行く人によって場所を選ぶべきだと思う。例えば、友達と行くなれば『越後長岡ゆらいや』や『華の湯』などのスーパー銭湯や『麻生の湯』のような日帰り温泉がよいという意見が出た。大学から近く気軽に行けて交通アクセスも良く、営業時間が長いのが主な理由である。日帰り温泉の1回当たりの入館料も500円～700円程度だと、学生にとっては手頃である。

そして、家族や大切な人と行くなれば『よもぎひら温泉和泉屋』や『ホテル飛鳥』などの施設が良い。宿泊できる施設は大抵少し豪華なつくりとなっていて雰囲気も良い。大切な人と大切な時間を過ごすために、通常の日帰り温泉より値が張ってでも思い出づくりや、良いサービスを受けさせてあげたいという気持ちが優先するからだ。

12 - 3 温泉について学生が思ったことを紙に書きだしてみた

調査してわかった温泉の良さや楽しさを視覚的にわかりやすく伝えるためにどうすればよいかと考えて、とりあえず紙に書き出してみた。これが意外と役に立った。ゼミ学生同士の意見の共有や頭の中にあるものの整理、伝えたいこと、キャッチコピーをまとめる際に大いに効果があった。実際に書き出したものを温泉パネルとともに悠久祭で展示し、好評を得ることもできた。紙に書き出すことにより温泉調査活動で気づいた温泉の良さや素晴らしさを再確認することができた。①～③に示したように何らかのお題（テーマ）を決めて、それについてのゼミ学生同士のブレインストーミングはやっても楽しかった。

① 温泉の魅力を学生で考えた



写真 43（左）写真 44（右）いずれもゼミでのブレインストーミングでのアウトプット

写真 43 で示した温泉の魅力は、地元の人にとって温泉が昔からある馴染みの観光地であり、地域活性化に既に十分役立っているという点だ。また温泉が交流の場になっていることも魅力のひとつだと気づいた。『桂温泉』に調査に行った際、仕事終わりに入りに来ていた地元の方と話す機会があった。温泉が元気の源になっていることがわかる。

写真 44 の学生が感じた温泉の魅力は、昔ながらの温泉施設と違って現在の温泉施設はさまざまなサービスが受けられることだ。『えちご川口温泉』は、夏休み期間のプール営業だけでなくトレーニングルームもあり、健康づくりや体力づくりが可能となっていた。『ホテル飛鳥』にはカラオケルームがあった。『よもぎひら温泉和泉屋』では立ち寄り湯の際にも無料でマッサージ機を使用できた。最近の温泉施設は、一般的に露天風呂やサウナだけでなく、さまざまな浴槽の種類も多くなっていることが特徴だ。ジャグジー付きの温泉や花や海藻の香りがする温泉など様々な工夫を凝らした施設があった。

現在の温泉施設が昔に比べてさまざまなサービスが受けられるようになったことから、お客さんのニーズが増えた今の時代では、新規の温泉施設はサービスを充実させなければ集客が望めないことがわかる。昔ながらの風情ある温泉も、今風の温泉もどちらも捨てがたく魅力的である。昔ながらの温泉も良さを残しながら、サービスを増やしていくことがこれから必要になってくるだろう。

② 体験して感じた温泉へ行くことによって得られた効果



写真 45（左上）写真 46（右上）写真 47（左下）写真 48（右下）いずれもゼミにて。

写真 45 の左側の学生が感じたのは、温泉には心身の疲労を回復させてくれる効果があることだ。日頃の生活で溜まった疲労やストレスは、自然に囲まれた落ち着いた雰囲気の中で温泉にゆっくり浸かることでより回復しやすくなる。リラックスして景色を楽しみながら入る露天風呂は家では味わえない温泉ならではの贅沢であり楽しみの1つでもある。

写真 45 の右側の学生が感じた効果は、温泉に入ることによって心の距離が近づいたという経験だ。温泉施設の調査を行っている際、ほとんどの施設で近隣の人たちやその他の利用客が向こうから話しかけてくれた。他人同士と一緒に温泉に入り、裸の付き合いをするなかで会話が生まれ仲良くなれるのは温泉の持つ心を近づけてくれる効果のおかげだ。

写真 46 の学生が印象深かったのは、『よもぎひら温泉和泉屋』で宿泊した際、さまざまなおもてなしを受けることで日常を忘れ寛ぐことができたことだ。普段やらなくてはならない家事等をせずに、好きなようにリラックスして時間を過ごすことができることこそ、温泉旅館に泊まる大きなメリットだと再認識した。

写真 47 の学生が感じたのは、リラックス効果である。これも『よもぎひら温泉和泉屋』に泊まった体験がベースとなっている。温泉には人をリラックスさせる効果があると肌で感じる事ができた。

写真 48 の学生が温泉へ行くことで得られた効果は、温泉への心理的な抵抗がなくなった点だ。温泉について調査活動を行うまでは、実は温泉のことをあまり良く思っていなく、他人と風呂に入るなど考えられないと言っていたほどである。

しかし、ゼミ活動で初めて麻生の湯に行き、以来、彼の（実は私であるが…）温泉に対する考えが少しずつ変わっていったのだ。温泉は楽しいものであり人の心を繋げるコミュニケーションツールだと思えるようになった。

③ 温泉に行く上で伝えておきたい大切な知識



写真 49 (左上) 写真 50 (左下) 写真 51 (右上) 写真 52 (右下) いずれもゼミにて。

写真 49 の学生が言いたいのは、入浴前には心身の準備をしたほうが良いということだ。新潟大学の村山先生が特別授業でおっしゃっていたように、温泉に入る前に身体をほぐすことが大切である。代謝が良くなることによって入浴した際に体が驚かないための工夫である。入浴後も柔軟体操を行うとダイエットなどにも良いのだと聞いた。

写真 50 の学生が伝えておきたいのは、入浴前にコップ 1 杯水分補給をすること、シャワーで身体を洗ってから入浴すること、かけ湯を手足にかけてから入浴するなどマナーやしなければならないことが多々ある。きつい言いかたをするようだが、準備を怠ったり、最低限のマナーが守れない者に温泉に入る資格はないというところも確かにある。

写真 51 の学生が伝えておきたい大事なことは、温泉は人と人が交流するコミュニケーションの場という点だ。地域に密着した温泉などに行けばお客さんのほとんどが地元の人で、その温泉のファンまたはマニアであると考えてよい。そこによそ者がお邪魔して一言も喋ることもなく入浴していたらかなり浮くのではないだろうか。かなり気まずいと思う。ひとりでゆっくり浸かるのも良いがたまには地元の方やマニアな方と会話を楽しみながら温泉を堪能するのも悪くないだろう。見ず知らずの人同士でも仲良くコミュニケーションをとれるのが温泉の魅力であり大切なことである。

写真 52 の学生の実体験にあったようだが、忘れてはならないのは長湯の危険性である。温泉から上がろうとした時に一緒に入っていた年配のお客さんに話しかけられたそう。その時思わず長話をしてしまい、のぼせてしまったという。温泉に長く入ることは意外と危険なのだ。コミュニケーションも大事だが、自分の身体を一番に考えるべきである。



写真 53（左）よもぎひら温泉和泉屋さんでの記念撮影



写真 54（右）高龍神社へと抜ける道での風景

12-4 おわりに～今年度の活動の振り返りと長岡市及び周辺地域の温泉・入浴施設に若者を呼び込むために

昨年に続き今年度のゼミ活動の目的は、温泉施設・入浴施設の現状を把握することと、若者を温泉に呼び込む為には何が必要か調査しアウトプットすることである。そのために実際に温泉施設に行き、調査したことをレポートにまとめた。悠久祭で学生が作成した温泉施設紹介パネルを展示した。悠久祭や活動報告発表会を通してアウトプットができた。

調査していく上で、若者の温泉施設についての関心が低いことがわかった。まず若者に知ってもらうことが大切だと気づいた。若者に温泉の魅力をアウトプットしていくために、温泉の特徴や強みは何かと考えながら調査を行ってきた。温泉調査で若者に温泉の効能や場所を伝えることよりも、温泉の楽しさについて伝えたほうが興味関心を持ってもらえることがわかった。今後、温泉に足を運んでもらうためには、温泉施設の情報と共に楽しさを発信することが重要だと認識できた。

現在ほとんどの温泉施設がホームページを開設してはいるが、若者が多く利用しているtwitterやfacebook、instagramなどSNSを活用している施設はまだそう多くないのが現状である。今年度はそこまでできなかったが、大学のホームページ等に温泉施設紹介パネルや情報を載せたページを追加してもらうようにすることや、SNSを使ってリアルタイムで温泉の紹介していくことなども効果があったかも知れない。

実際のところ、温泉に行くためには車がないと厳しいと思う。公共交通機関で行くこともできるが、駅やバス停の近くにある温泉は少ないし、時間的制約が大きい。交通面の改善は現実的に費用や経営から見ても難しい問題であり、行政のバックアップが必要である。

温泉調査を通して領収書を書いてもらうこと、温泉施設のレポートを調査日の翌日までに提出することなど、これまであまり経験しないことをやってきた。地域活性化ゼミ活動を通じて社会に出てから必ず必要になる能力を鍛えることができた。

温泉施設は長岡にとって地域の宝であり、かけがえのないコミュニケーションツールであることを再確認できた。温泉施設に若者を呼び込むには交通面の改善など多くの課題が残るものの、SNSでの情報発信や今後も地道に調査を続けていくことが温泉施設に若者を呼び込むことにつながるのではないかと考えている。

謝辞

地域活性化アドバイザーとして今年度ご指導・ご鞭撻いただきました『よもぎひら温泉和泉屋』の金内智子さま、新潟大学教育学部の村山敏夫先生に心から感謝申し上げます。

小川和宣さま、風間正人さま、大関雅人さま、小林和彦さま、小林説人さま、山川富士夫さま、蓮池浩咲さま、諸橋 薫さま、その他お世話になったみなさまにも、この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

大学内の事務手続きで大変お世話になった職員のみなさま、ヒアリングにご協力いただいた横田百合江さん、パネル作成を手伝ってくれた金子玲奈さん、その他多くの方々に支えられてきました。お世話になった皆様全員に心から御礼申し上げます。

今年度の活動は昨年度以上に苦労はしましたが、嬉しいことも多かったと思います。

昨年度のゼミ活動で奮闘した卒業生の釣巻貴弥くんや井口美咲さん、長岡大学に着任して初めて送りだしたゼミの卒業生である星野 緑さんが、それぞれの場所で精いっぱい力を振り絞っている姿を見聞きできたのは何よりの喜びとなりました。有難いことです。

(ゼミ担当：山川 智子)

参考文献

- ・「新潟日帰り温泉パラダイス 2016-2017 年版」新潟日報社
- ・「日帰り温泉 三段スタンプ本」(2016) ジョイフルタウン
- ・「最新版 新潟日帰り湯」(2016) Komachi WEEK!
- ・「新潟温泉大図鑑 2014-2015 年版」Newsline
- ・「温泉の科学」(2013) 佐々木信行、サイエンスアイ新書

その他、各施設のパフレット、ホームページなども参考にさせていただきました。

小須戸温泉健康センター

「花」と緑の小須戸

思い出話に「花」が咲く カフェわかば

温泉で心も体も温まり 笑顔に「花」が咲く

お湯も人も「花」がある ～花の湯館～

花の湯館

営業時間 10:00 ～ 21:00

休館日 毎月第2水曜日

【祝日の場合は前日】、12月31日

【泉質】泉質名なし

(メタケイ酸の項による温泉、
メタケイ酸含有の中性泉)

入館料

大人(中学生以上)	タオル付	500円
	タオル無	450円
小人(小学生まで)	タオル付	200円
	タオル無	150円



学生からのひとこと (丸山 貴樹)

実家からも近く、馴染みの深い温泉です。地元では「お湯がいい」ともっぱらの評判で、常連客も多いと思います。日曜日恒例の子供に大人気のアヒル風呂を始め、さまざまなイベントが毎月のように開催されています。スタッフの方の丁寧な対応やお客さんを楽しませるアイデアに、お風呂を通してお客さんを幸せにしたいという思いが伝わってきました。ホームページも充実していて、見ていただけでも楽しいです。



小須戸の食材を使った料理が味わえる「温泉カフェわかば」

小須戸の食材を使った料理を小須戸でいただける町屋風のカフェ。地産地消で地域活性化に貢献している。小須戸の人なら誰もが知っている「徳永豆腐屋」さんの豆乳ソフトは甘すぎず、程良いあっさりとした甘味でお風呂上がりのクールダウンに最適！来たらは是非味わって欲しい逸品です。



【交通アクセス】

〒956-0114 新潟県新潟市秋葉区天ヶ沢 498-1

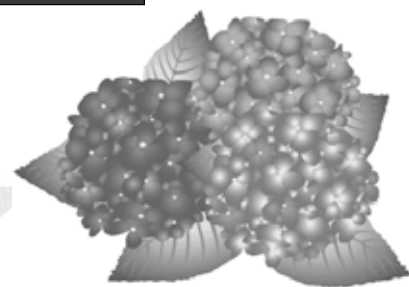
TEL:0250-38-5800

- ・JR 信越本線「矢代田駅」より徒歩で 25 分、
またはバスで 5 分 ※バスは 3 時間に 1 本程度
- ※矢代田駅より区バス「うららこすど」行きへ乗車
- ・北陸自動車道「三条燕 IC」より車で 40 分



ごまどう

湯っ多里館



【営業時間】

10:00 ～ 22:00（最終受付午後9時まで）

【定休日】

毎月第2火曜日（祝祭日の場合は翌日）

【入浴料金】

大人 700 円（午後 5 時以降 600 円）

小人 400 円

【平日 大人タオルセット無料】

泉質：ナトリウム－塩化物泉

（アルカリ性低張性温泉）

主な効能

【浴用】きりきず、末梢循環障害、冷え症、うつ状態、皮膚乾燥症

【飲用】萎縮性胃炎、便秘

護摩堂山に佇む、ゆったりゆったりの時空間

越後平野を一望できる大パノラマ露天風呂

新潟の美しさを再確認できる温泉

～ごまどう湯っ多里館～



屋外の飲泉場の様子

ごまどう湯っ多里館には県内でも数少ない飲泉場があります。温泉水を安心して気軽に飲める場所は珍しいです。実際に温泉水を手にくくしてみると、かすかに硫黄のにおいがします。少ししょっぱい不思議な味わいがしました。

学生からのひとこと（丸山 貴樹）

露天風呂から見た田園風景は最高の眺めです。明るく清潔で開放的な雰囲気のある浴室は、本当に名前の通りにゆったりできると実感しました。毎週土曜日に男湯・女湯の入れ替えがあって、右下の「あじさいの湯」と左下の「ごまどうの湯」もそれぞれ甲乙つけがたい魅力があります。



あじさいの湯



ごまどうの湯

田上町多目的交流施設 ごまどう湯っ多里館

〒959-1502 新潟県南蒲原郡田上町大字田上丙 3673-1

TEL : 0256-57-6301 FAX : 0256-57-6302

【交通アクセス】

・JR 田上(新潟県)駅出口から徒歩約7分

・JR 田上駅より車で約2分

・JR 新潟駅より車で約50分

関川村健康保養センター

えちごせきかわ 桂の関温泉

ゆ～む

ゆ～むとは？



「ゆ～む」という名前には、誰もが「湯」に親しみ、「遊び」と「ゆとり」をもって「友」と「夢」を語り合える場にしたいという願いがこめられている。

【営業時間】

9:00 ～ 22:00 (4/1～10/31)

9:00 ～ 21:30 (11/1～3/31)

【休館日】

毎月第3水曜日

【入浴料金】

大人 500円 (中学生以上)

小人 300円 (4歳未満無料)

【泉質】

ナトリウム・カルシウム-硫酸塩温泉

【主な効能】

動脈硬化症、切り傷、慢性皮膚病、慢性消化症、神経痛、筋肉痛、関節痛



地域文化交流会館の足湯ちぐら

【学生の体験レポート】(高山 汐音)

道の駅に併設していることが相乗効果となっている。私が昼頃行った時は、休憩室が買い物や昼食を終えた地元客で賑わっていた。浴室でも友人同士、楽しくお喋りしながら寛ぐ姿が見られた。「ゆ～む」という言葉に込められた願いが実現されていると思う。女湯のみの歩行浴槽や、女性専用のリラックスルームなど、女性が安心して寛げるような設計になっているのが嬉しい。道の駅関川の地域文化交流会館にある足湯「ちぐら」も家族や友人、色々な人と交流できるのでお勧めである。



【住所】〒959-3265

新潟県岩船郡関川村下関 1307-11

TEL: 0254-64-1726

【アクセス】

JR 新潟駅から白線線・羽越線経由、
JR 坂町駅乗り換え、米坂線 JR 越後
下関駅下車。徒歩約 10 分。
JR 坂町駅から車で約 15 分。

写真引用・参考

<http://www.sekikawa.org/yu-mu/yu-mu.html> より

カーブドッチ ヴィネスパ

カーブドッチヴィネスパ～極上の時を約束する総合温泉施設
泉質が異なる大小 2 つの露天風呂から見る角田山の風景に心癒されます。



＜営業時間＞

平日 10 時～22 時 土日祝 7 時～22 時

＜定休日＞年中無休

＜入館料＞

平日・土日祝	1000 円
平日割引 (17 時～)	600 円

＜学生のひとこと＞

周辺にはレストランやワイナリーがあり、色々楽しめました。施設はとにかくおしゃれで、お風呂は湯加減がちょうど良く、眺めは絶景の一言に尽きます。女性のお客さんが多いヴィネスパですが、男の自分も大満足の温泉でした。

(安仲 諒人)

＜主な施設＞

内湯、露天風呂、遠赤外線サウナ(男湯のみ)、ジェットバス(女湯のみ)、アロマ岩盤浴(女湯のみ)、貸切部屋 ガーデンスパ、整体・足つば、ヘアサロン・スパ・ショップ「カーブドッチ アヴェダ」(スパは女性のみ)、貸切和室、リラクゼーションルーム、レストラン「湯楽」、洋室【宿泊】など

＜泉質＞

第一号源泉 アルカリ性低張性高温泉
第二号源泉 単純泉

＜適応症＞

(第一号源泉)

きりきず・やけど・慢性皮膚病・虚弱児童・慢性婦人病・動脈硬化症 etc,

(第二号源泉)

神経痛・筋肉痛・関節痛・五十肩・運動麻痺・関節のこわばり・うちみ・くじき・慢性消化器病・痔疾・冷え症・病後回復期・疲労回復・健康増進 etc,



〒 953-0011

新潟市西蒲区角田浜 1161

TEL:0256-77-2226

＜交通アクセス＞

北陸道 巻潟東 IC より車で約 25 分

JR 越後線 内野駅よりタクシーで 15 分

* 施設前には路線バスのバス停もあり。

ナステビュー湯の山

〈営業時間〉

午前 10 時～午後 10 時
(冬期は午後 9 時まで)
休館日：毎月第 2 金曜日

～松之山温泉を灯台のように見渡す絶景の湯～

〈泉質・主な効能〉

ナトリウム・カルシウム硫酸塩泉

神経痛 筋肉痛 慢性消化器病



本館

〈入浴料金〉

大人 650 円 小学生 300 円

～夜間料金～

午後 5 時以降の入館は大人 500 円

閉館 1 時間前以降 30 分前まで大人 350 円



露天風呂

〈浴槽の種類〉

大浴槽、露天風呂、
サウナ、水風呂

〈主な施設〉

- ・大広間・売店
- ・食堂・個室(有料)
- ・中広間・仮眠室



大浴槽



大広間

〈交通アクセス〉

関越自動車道 塩沢石打 IC から車で約
50 分、六日町 IC から車で約 50 分
JR 十日町駅から車で約 40 分
ほくほく線まつだい駅から車で約 20 分

〒942-1431

新潟県十日町市松之山湯山 1252-1

TEL.025-596-2619

FAX.025-596-2448

〈学生のひとこと〉(藤田春樹)

露天風呂から見た松之山の風景や館内の
雰囲気心に癒されました。露天風呂
の横には、白い椅子が並んだ休憩ス
ペースがあって長時間景色を堪能でき
ます。

浴槽は清潔でとても気持ちよく利用
できました。クジをやっていて、当た
るとソフトドリンクやアイスの無料
券が貰えました。サービス満点の施設
でした。

咲花 温泉 ホテル丸松

JR 咲花駅から徒歩で約 2～3 分、咲花温泉街の中ほどに風情のある建物が見えてくる。雄大な阿賀野川のほとりにあるはなさかじいさんのお宿、ホテル丸松。

ホテル丸松温泉の特色！

- 泉質
単純硫黄物泉
- 温度 (源泉)
54 度
- 効能
婦人病、皮膚病、神経痛、高血圧症など
- 特記事項
加熱循環なし、
源泉 100%そのまま 24 時間の掛け流し

■入館料 (日帰り立ち寄り湯)

大人・・・700 円(税込)

小人・・・400 円(税込)

*事前に電話で要確認。お得な宿泊プランや詳しい内容はホームページで確認を。

〒959-1615

新潟県五泉市佐取 2986

TEL : 0250-47-2331 FAX : 0250-47-2323

☆車では安田 IC から 国道 49 号経由約 8km

三川 IC から 国道 49 号経由 15km



花の湯



学生からのひとこと (武士俣 大智)

温泉に入ると、たちまち硫黄の香りが嗅覚を刺激する。穏やかで本当に温泉らしい匂いだと思う。エメラルドグリーンというのか、黄昏を思わせるお湯の色も独特だ。心からゆったりと浸かった後、一献傾ければこれほどの至福はないと思わせる。そんな温泉だ。

過去には長岡大学のリーダーズ研修に使わせていただいたこともあるようだ。樹木や岩場に囲まれた露天風呂に入りながらふと物思いに耽ってしまっていた。女将さんたちに温かくもてなしていただいたのもありがたく嬉しかったし、いい思い出となった。

「ピンクリボンのお宿」とは？

乳がんの手術を受け順調に回復した女性たちに、気兼ねなく入浴や旅を楽しんでもらおうという趣旨で設立されたネットワークです。

ホテル丸松は、新潟県内でも数少ない「ピンクリボンのお宿」のひとつ。一歩進んだやさしいおもてなしが自慢の宿です。

長岡大学 学生による地域活性化プログラム 各プロジェクト報告書

1. 十分杯で長岡を盛り上げよう！ ～十分杯を、地域から愛される“問題児”に！？～
権 五景ゼミナール
2. 企業ホームページの改善による効果の確認
村山光博ゼミナール
3. 未来の農業革新Ⅲ ～地産地消を通じた循環型社会への貢献～
橋長真紀子ゼミナール
4. 地域の文化と伝統をつなぐ ～高橋九郎生誕 165 周年を記念する活動～
高橋治道ゼミナール
5. 長岡周辺地域の温泉資源の現状分析と情報発信 ～温泉☆ドキドキプロジェクト～
山川智子ゼミナール
6. グラスルーツグローバリゼーション ～草の根・地域からの地球一体化・人類一体化推進～
広田秀樹ゼミナール
7. 酒粕で長岡を盛り上げよう！ ～地域資源としての酒粕の可能性を探る～
権 五景ゼミナール
8. 「まちの駅」をフィールドとした活動等による地域活性化への貢献
鯉江康正ゼミナール

平成28年度 学生による地域活性化プログラム 山川智子ゼミナール活動報告書

【発行日】 平成29年 3 月22日
【発行人】 村山 光博
【発 行】 長岡大学 地域活性化プログラム推進室
〒940-0828 新潟県長岡市御山町80-8
T E L 0258-39-1600 (代)
F A X 0258-39-9566
<http://www.nagaokauniv.ac.jp/>